

PowerQuest
V2i ProtectorTM 2.0
ブイツーアイ・プロテクター *Desktop Edition*

活用ガイド

PowerQuest® V2i Protector™ 2.0 Desktop Edition 活用ガイド

第1版—2003年7月18日

© 2002 - 2003 PowerQuest Corporation

All rights reserved. This product and/or its use may be covered by one or more of the following patents: 5,675,769; 5,706,472; 5,930,831; 6,088,778; 6,108,697; 6,108,759; 6,173,291; 6,178,487; 6,178,503; 6,185,575; 6,185,666; 6,253,300; 6,330,653; and 6,377,958.

Additional patents may be pending. Please refer to www.powerquest.com/legal_notices for additional information about PowerQuest's patents.

本ソフトウェアおよびマニュアルの使用または使用結果に対するすべての責任は、お客様にあります。本書は、ソフトウェアライセンス契約書に記載されている場合を除き、いかなる目的でも、電子的または機械的な方法で複製することはできません。

本ソフトウェアおよびマニュアルは著作権法で保護されています。ソフトウェアの所有権を含め、その他すべての権利はPowerQuest Corporationにあります。PowerQuest、V2i Protector、Drive Image、PartitionMagic、およびPowerQuestのロゴは、米国およびその他の国におけるPowerQuest Corporationの登録商標です。DOS、Microsoft、Windows、およびWindows NTはMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。NetWareはNovellの登録商標です。その他すべてのブランドおよび製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。Drive ImageはUPX圧縮技術を使用しています。

Copyright 1996-2003, Markus Franz Xavier Johannes Oberhumer and Laszlo Molnar.

株式会社ネットジャパン

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-18-3

sales@netjapan.co.jp

<http://www.netjapan.co.jp>

はじめに

本書は、「PowerQuest V2i Protector 2.0 Desktop Edition」(以下は V2i Protector とします)を利用する前に確認しておかなければならないことやセットアップの方法、具体的なバックアップや復元の例が書かれています。

また、応用的な使い方として、特定のファイルだけを復元する方法や増分バックアップを行う方法についても説明しています。

目次

第 1 章：はじめに確認すること (PowerQuest Recovery Environment での起動確認)	4
第 2 章：インストール	11
第 3 章：初めて V2i Protector Desktop 版を起動するとき (製品ライセンス認証)	19
第 4 章：ハードディスクへのバックアップと復元	23
4-1. C ドライブのバックアップを D にドライブにとりたい	23
4-2. D ドライブに保存したバックアップを C ドライブに復元したい	31
第 5 章：CD/DVD へのバックアップと復元	40
5-1. C ドライブのバックアップを CD/DVD にとりたい	40
5-2. CD/DVD から C ドライブに復元したい	49
第 6 章：応用編	61
6-1. 特定のファイルを取り出したい (PowerQuest Backup Image Browser を使う)	61
6-2. 増分バックアップを行いたい (C ドライブの増分バックアップを D ドライブにとりたい)	66
6-3. 複数の非表示パーティションをバックアップする	76

第 1 章：はじめに確認すること (PowerQuest Recovery Environment での起動確認)

コンピュータの障害により OS が動作しなくなると、復元が不可能なのではないかと考えてしまいます。このような場合には V2i Protector の製品 CD から起動すると PowerQuest Recovery Environment (以下 PQRE) モードに入り復元することができます。PQRE では、System Restore (バックアップイメージの復元) または Backup Image Browser (ファイルごとの復元) を実行することができます。

PQRE は、Windows XP が標準でサポートするデバイスに対応しており、V2i Protector によるバックアップイメージファイルの復元、参照、管理を行います。

PQRE で、バックアップイメージの保存先が認識できない場合には復元できません。この章の内容に従って、必ずバックアップイメージの保存先が認識できるかどうかの確認を行ってください。

注意： バックアップイメージを外付けの周辺機器 (SCSI、USB、IEEE1394 など) やネットワークの共有フォルダから復元する場合には、必要なものを接続してからコンピュータを入れてください。

1. " Press any key to boot From CD..." と表示されたら 5 秒以内に何らかのキーを押してください。何を押したらよいのかがわからない場合には、Enter キーを押してください
" Press any key to boot From CD..." と表示されない場合には、お手持ちの PC が、CD から起動のできる設定になっていないことが考えられます。CD から起動ができない場合には、ご利用 PC のメーカーにご確認ください。自作機の場合には、マザーボードのマニュアルなどを参照してください。



図 1-1

なお、利用可能なメモリが 256MB に満たない場合には、以下のようなメッセージが表示されます。



図 1-2

2. しばらくすると、"Intializing network..." と表示されます。

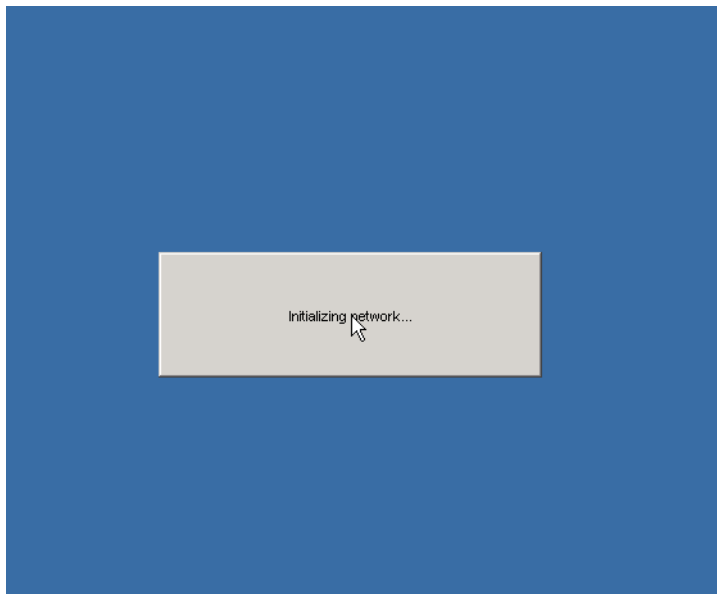


図 1-3

3. ネットワーク上で自動的に IP アドレスが割り振られなかった場合には、6 ページの「図 1-4」の画面が表示される場合があります。

復元するイメージがネットワーク上にない場合には、そのまま [OK] をクリックしてください。

復元するイメージがネットワーク上にある場合には、[Modify...] をクリックして、IP アドレスなどを指定してください。

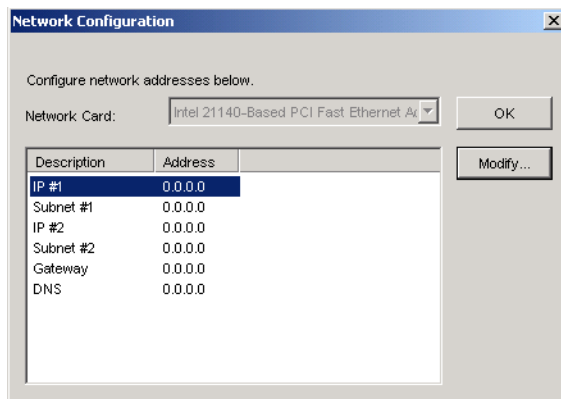


図 1-4

4. 「PQRE」の画面が表示されます。

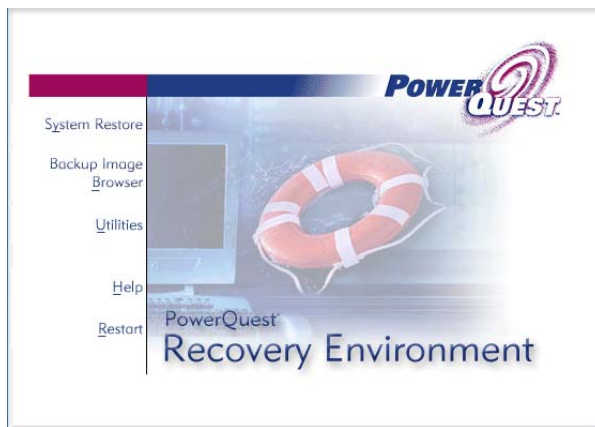


図 1-5

5. [System Restore] をクリックしてください。



図 1-6

6. 「Welcome to the System Restore Wizard」 という画面になります。
[Restore drives] にチェックが入っていることを確認して [Next] をクリックしてください。

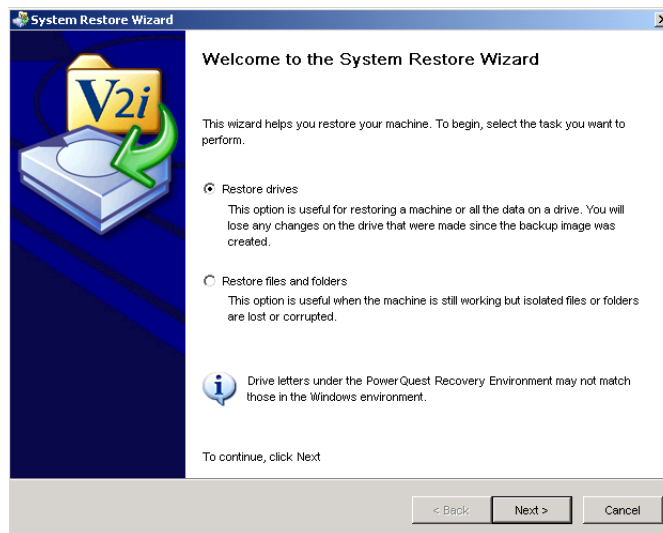


図 1-7

7. 「Restore Type」という画面になります。

[Single drive] にチェックが入っていることを確認して、[Next] をクリックしてください。

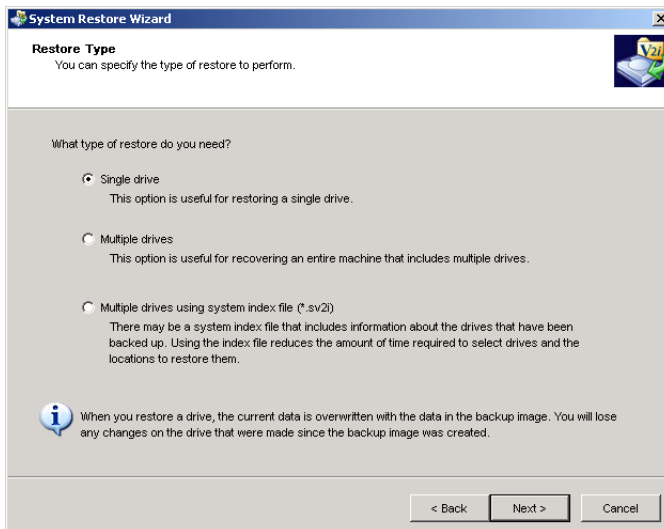


図 1-8

8. 「Backup Image to Restore」という画面になります。

[Browse...] をクリックしてください。

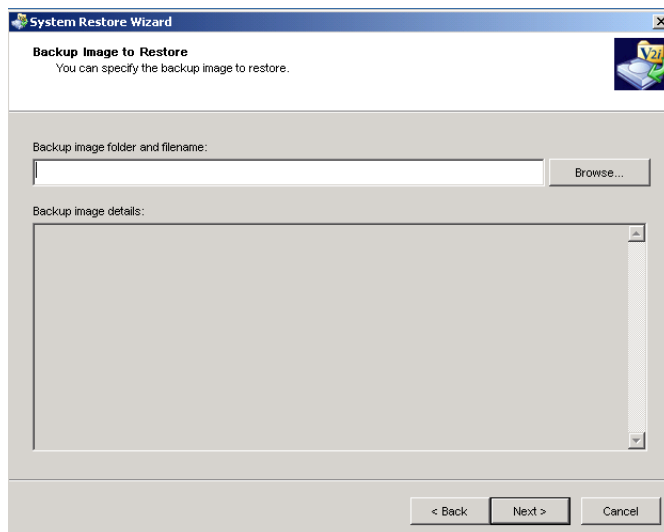


図 1-9

9. 「Open」という画面になります。

[Look in:] の横にある （下向きの三角）をクリックしてください。

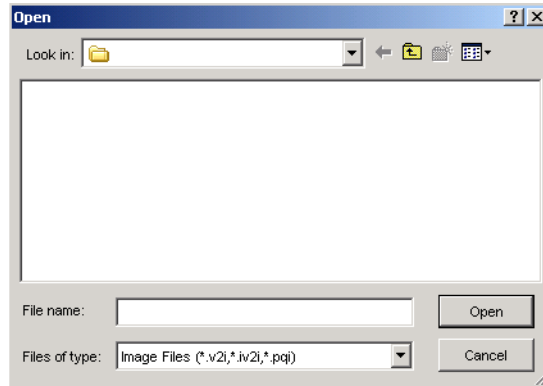


図 1-10

イメージファイルを格納する予定のドライブが表示されているかどうか、確認してください。

注意： Windows 上のドライブ文字と一致しない場合があります。

また、保存先がネットワークドライブの場合には、バックアップイメージを格納する予定の場所にアクセスできるかどうかを確認してください。

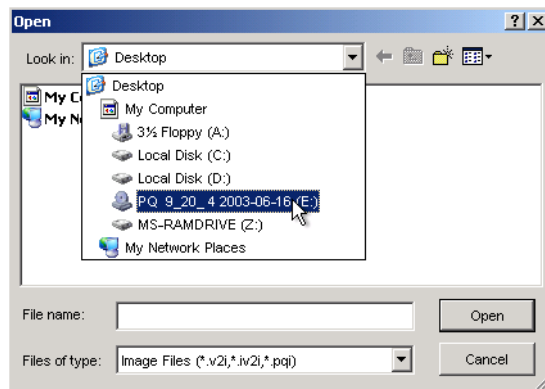


図 1-11

10. 確認が終了したら [Cancel] をクリックしてください。「Backup Image to Restore」の画面に戻るので、[Cancel] をクリックしてください。

注意：イメージファイルを格納する予定のドライブやネットワークドライブが見えない場合には、弊社サポートにご連絡ください。

11. 「PQRE」の画面に戻ります。

[Restart] をクリックしてください。

注意：この画面でリセットボタンをクリックしたり、電源を切ると PC で設定されている時間が変更されます。

12. " Your machine will now be restarted.Do you want to continue? " というメッセージが表示されるので [Yes] をクリックして再起動を行ってください。

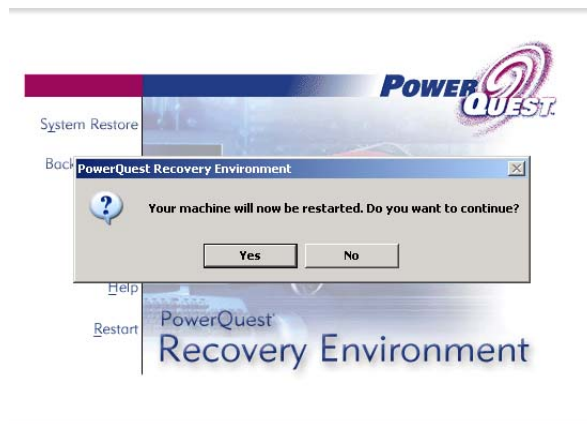


図 1-12

第 2 章：インストール

この章では V2i Protector Desktop 版をインストールするための手順を説明します。

1. Windows2000 または XP を起動し、V2i Protector の製品 CD を CD-ROM トレイに挿入してください。

以下のような画面が表示されるので、[インストール] をクリックしてください。



図 2-1

2. 「V2i Protector 2.0 用の Install Shield ウィザードへようこそ」という画面が表示されます。インストールを続行する場合には、[次へ] をクリックしてください。

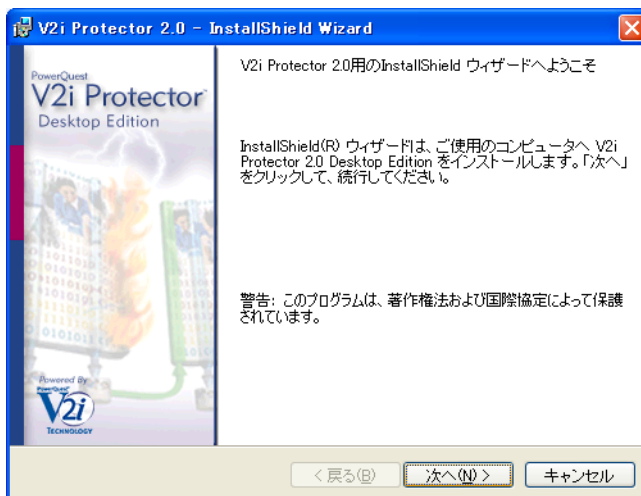


図 2-2

3. 「使用許諾契約」が表示されます。

同意して V2i Protector を利用する場合には、[使用許諾契約の条項に同意します] にチェックを入れて、[次へ] をクリックしてください。

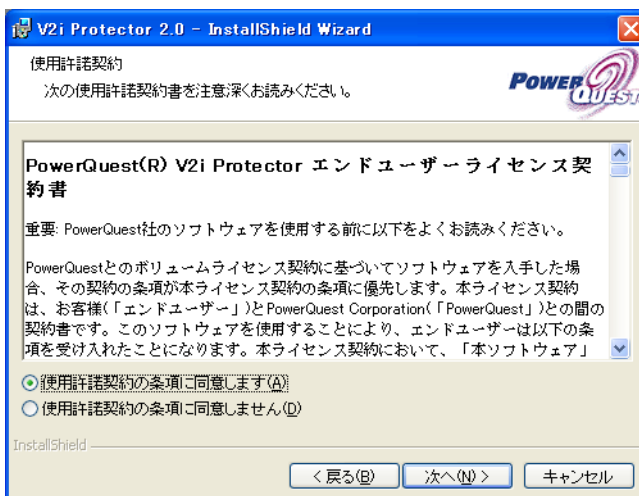


図 2-3

4. インストール先のフォルダを指定する画面が表示されます。
特に変更を行う必要がない場合には、[次へ] をクリックしてください。

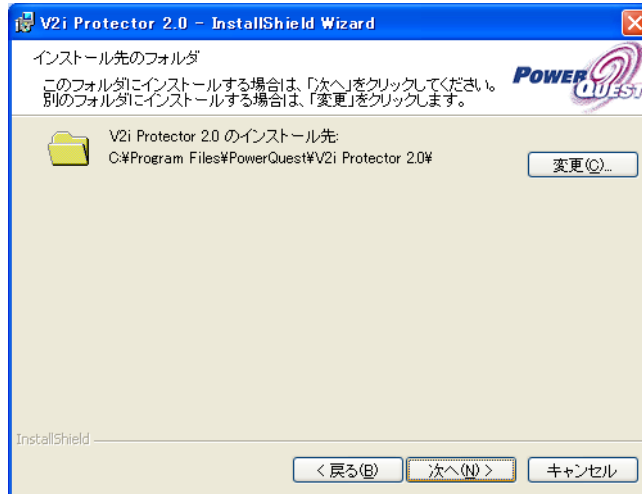


図 2-4

5. ネットワークに接続しているかどうかの指定を行います。
「ドメイン」という企業向けのネットワーク構成を利用していない限り、[いいえ] を選択して、[次へ] をクリックしてください。

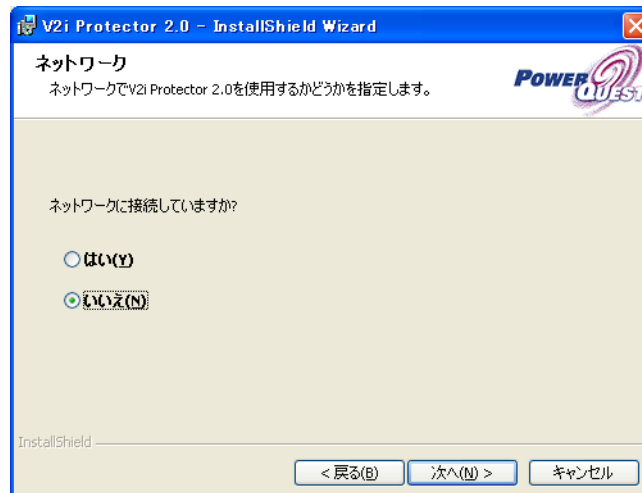


図 2-5

6. 「プログラムをインストールする準備ができました。」という画面が表示されます。インストールを続行する場合には [インストール] をクリックしてください。



図 2-6

7. Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合には、図 2-7 の画面が表示されます (Microsoft .NET Framework をアンインストールした場合には、表示されない場合がありますので、手動でインストールしてください。詳細は、ユーザーガイドの第 1 章「V2i Protector Desktop Edition のインストール」を参照してください)。

この画面が表示された場合には、[OK] をクリックしてください。

この画面が表示されない場合には、手順 12. に進んでください。

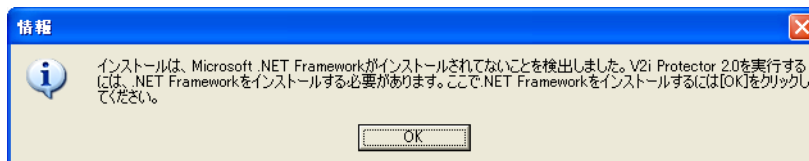


図 2-7

8. Microsoft .NET Framework の追加使用許諾契約が表示されます。

同意して Microsoft .NET Framework のインストールを行う場合には、[はい] をクリックしてください。

ヒント！ Microsoft .NET Framework 1.1 以降を Windows Update でインストールすることも可能です。

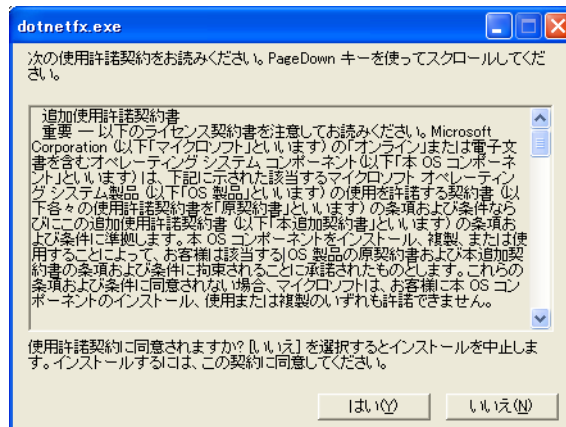


図 2-8

9. 「Microsoft .NET Framework セットアップ」が表示されます。

インストールを行う場合には、[はい] をクリックしてください。

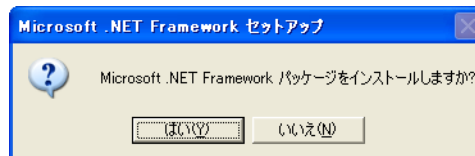


図 2-9

10. Microsoft .NET Framework インストールを続行する場合には、[次へ] をクリックしてください。

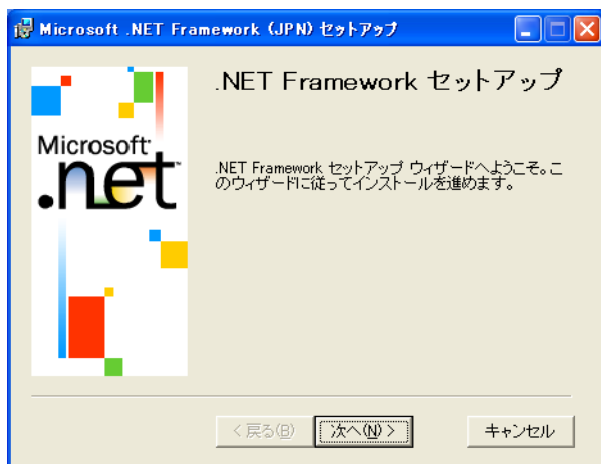


図 2-10

11. Microsoft .NET Framework のインストールが完了したら、[OK] をクリックしてください。

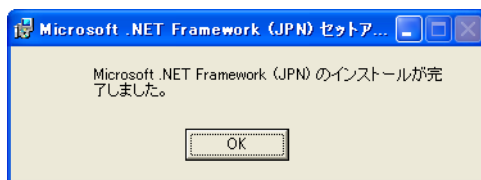


図 2-11

12. 「V2i Protector 2.0 をインストールしています」という画面が表示されます。

注意： 数分間インストールが停止しているように見える場合がありますが、キャンセルしたり、電源を切ったりしないよう注意してください。

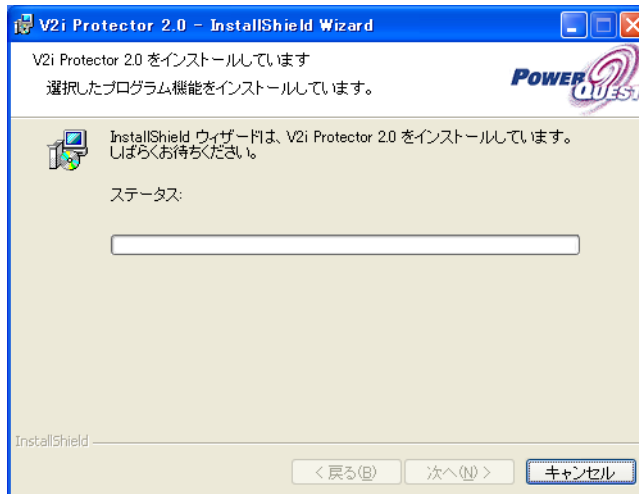


図 2-12

13. 「V2i Security Configuration Tool」という画面が表示される場合があります。

表示されない場合には、手順 14. に進んでください。

通常 Windows でバックアップをとる管理者は、「Administrators」というグループに属していますので、通常は、ユーザーやグループを追加する必要はありません。

特に追加 / 削除を行うことがなければ [閉じる] をクリックしてください。



図 2-13

14. 「InstallShield ウィザードを完了しました」というメッセージの画面が表示されます。
[完了] をクリックしてください。

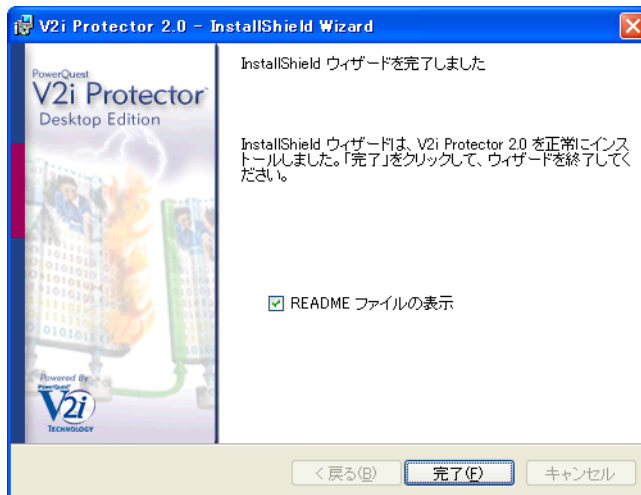


図 2-14

15. README が表示されている場合には、README を読んでから README を閉じてください。
16. 「V2i Protector 2.0 の Installer 情報」という画面が表示されます。
[はい] をクリックして再起動を行ってください。
すぐに再起動が行えない場合には、[いいえ] をクリックしてください。

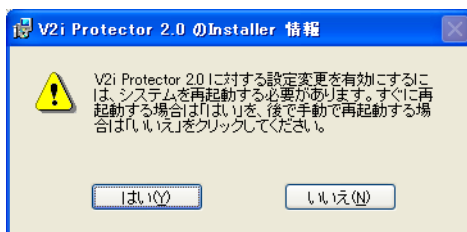


図 2-15

第 3 章：初めて V2i Protector Desktop 版を起動するとき (製品ライセンス認証)

この章では、初めて V2i Protector を起動したときのライセンス認証を、どのように行うのかを説明します。

1. [スタート] [すべてのプログラム] [PowerQuest V2i Protector] [V2i Protector Desktop Edition] で V2i Protector を起動してください。

注意：Windows 2000 の場合には、[すべてのプログラム] の部分が [プログラム] になります。

2. 「製品のライセンス認証」という画面が表示されます。

ここで、パッケージ内のシリアル番号を入力してください。

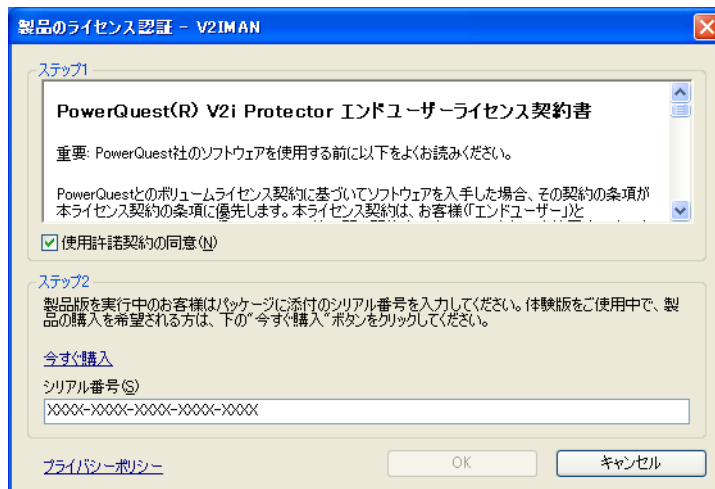


図 3-1

正しいシリアル番号を入力しない場合には、[OK] がクリックできません。

また、図 3-2 のような画面が表示される場合があります。

この場合には [再試行] をクリックせず、一度 [ライセンス未認証のままで継続] を選択して、再度正しいシリアル番号を入力してください。

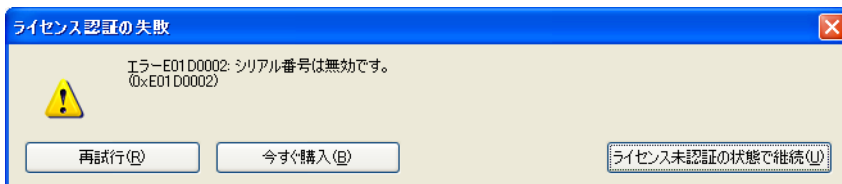


図 3-2

3. ライセンス認証が完了すると、「ライセンス認証の成功」という画面が表示されます。

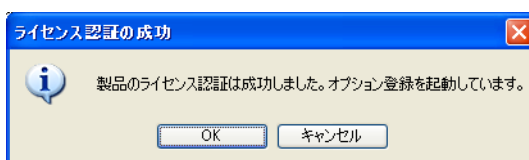


図 3-3

インターネットでユーザー登録をされる方は、[OK]をクリックしてユーザー登録を行ってください。図 3-4（ユーザー登録ページの画面は変更される場合もあります）が表示されます。ユーザー登録済みの方、およびインターネット以外でユーザー登録を行う方は、[キャンセル]をクリックしてください。



図 3-4

4. V2i Protector が起動したら、状態の欄に有効期限がないことを確認してください。

ライセンス認証が行われていない場合には、有効期限が表示されます。

図 3-5 は、ライセンス認証の終了したもの、図 3-6 は、ライセンス認証の終わっていないものです。

ライセンス認証を行わない場合には、有効期限を過ぎると V2i Protector を使用できなくなりますのでご注意ください。図 3-7 は、有効期限の切れたものです。

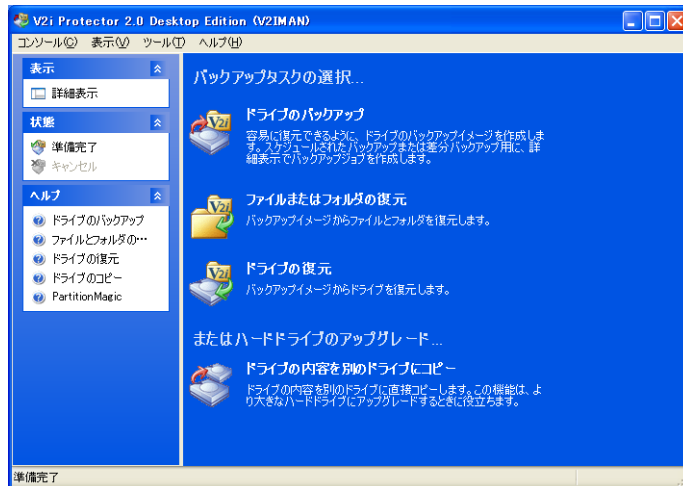


図 3-5

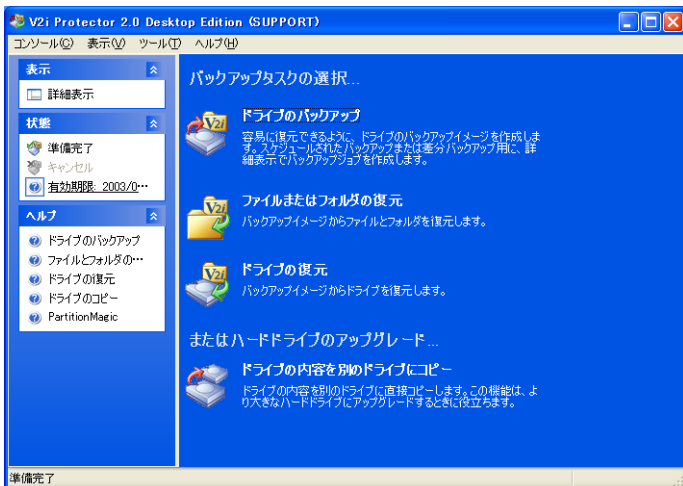


図 3-6

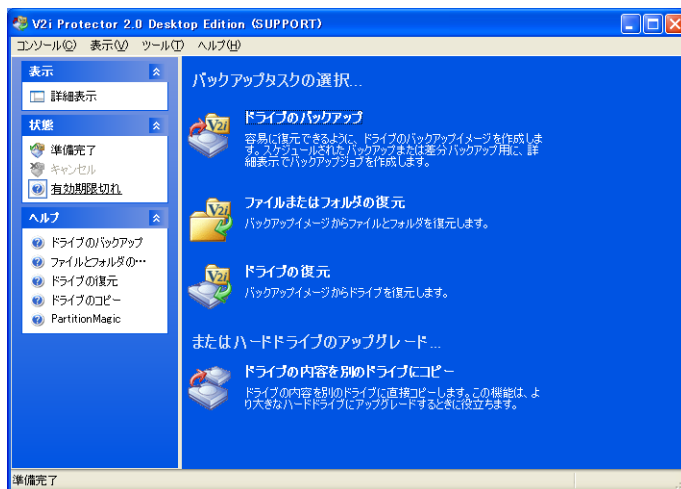


図 3-7

第4章：ハードディスクへのバックアップと復元

この章では、CドライブのイメージファイルをDドライブに保存し、それを復元する操作を例に、ハードディスクのバックアップと復元の方法説明します。

4-1. CドライブのバックアップをDにドライブにとりたい

1. [スタート] [すべてのプログラム] [PowerQuest V2i Protector] [V2i Protector Desktop Edition] で V2i Protector を起動してください。

注意： Windows 2000 の場合には、[すべてのプログラム]の部分が[プログラム]になります。

2. [ドライブのバックアップ] をクリックしてください。

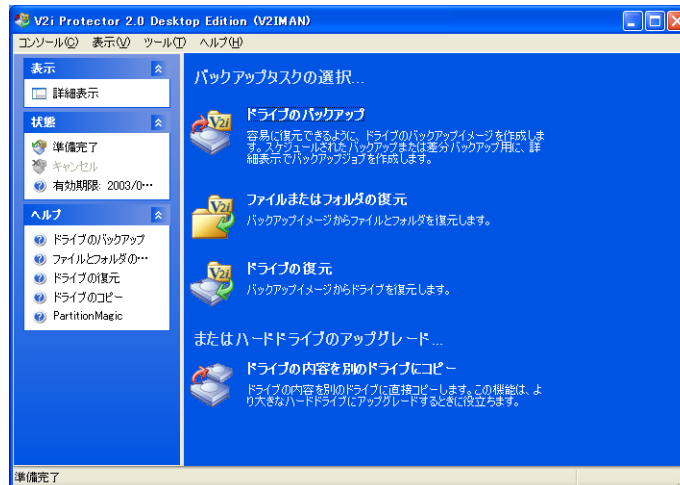


図 4-1

3. 「ドライブバックアップウィザードへようこそ」という画面が表示されます。
[次へ] をクリックしてください。

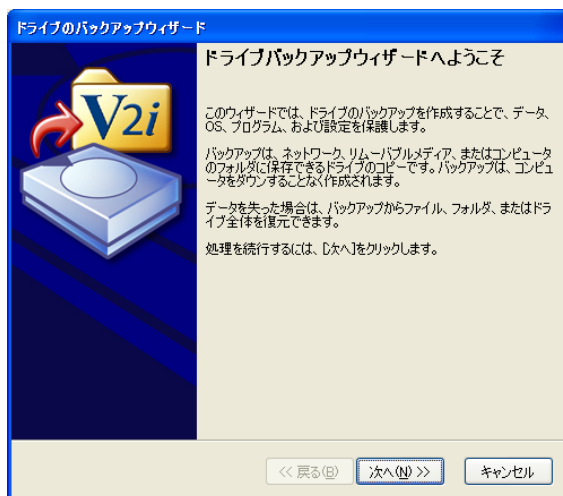


図 4-2

4. バックアップを行うドライブを選択して、[次へ]をクリックしてください。
ここでは、Cドライブが選択されています。

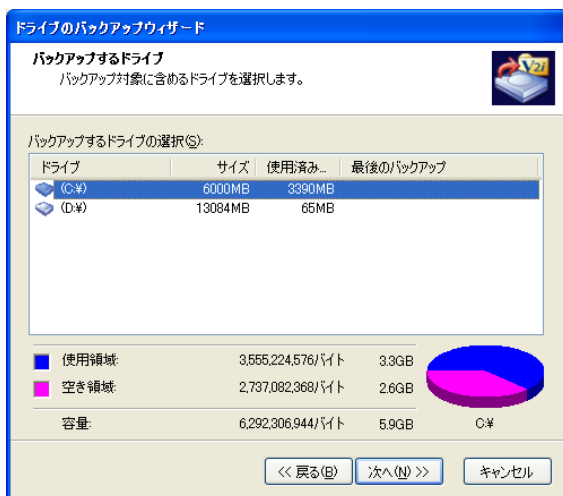


図 4-3

5. バックアップを行う場所を選択します。

今回はハードディスク上にバックアップをとりますので、[ローカルファイル] を選択して、[参照] をクリックします。

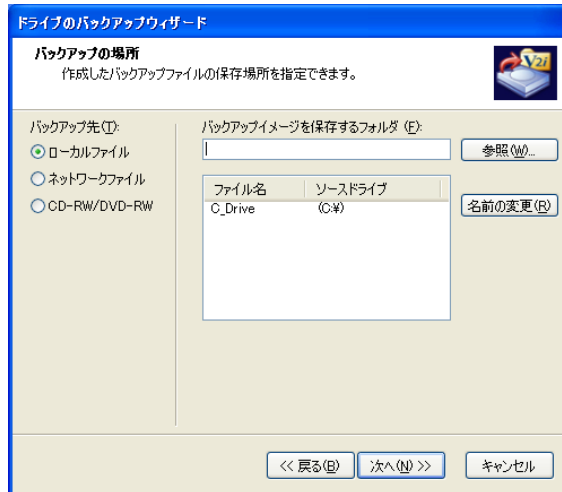


図 4-4

6. 「バックアップイメージを保存するフォルダ」という画面が表示されます。

ここでは、D ドライブにバックアップをとりますので、ローカルディスク (D:) を選択して、[OK] をクリックします。

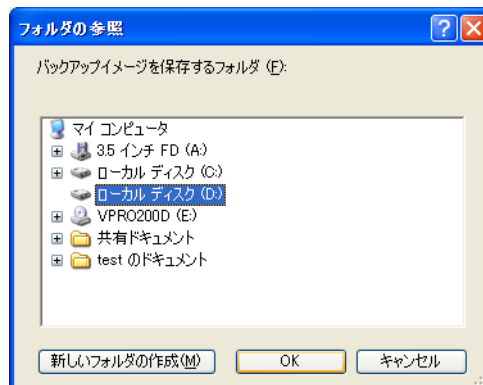


図 4-5

7. バックアップイメージを保存するフォルダの部分に「D:¥」と表示されます。

通常 C ドライブのバックアップをとるときのファイル名は「C_Drive」になります。

ここでは、標準的なファイル名でバックアップ行いますが、必要に応じて [名前の変更] でファイル名を変更してください。

[次へ] をクリックしてください。

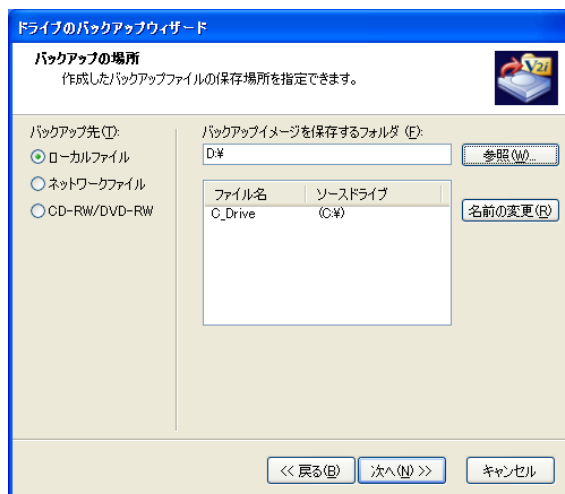


図 4-6

8. すでに同じファイル名がある場合には、「ファイルを上書きしますか?」というメッセージが表示されます。

[いいえ] を選択すると手順 7. に戻ります。

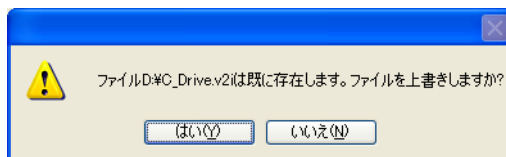


図 4-7

9. 「オプション」という画面が表示されます。

必要に応じて、圧縮率の変更、オプションの選択、イメージファイルにつけるコメントを指定します。

ここでは、何も指定せずに [次へ] をクリックします。

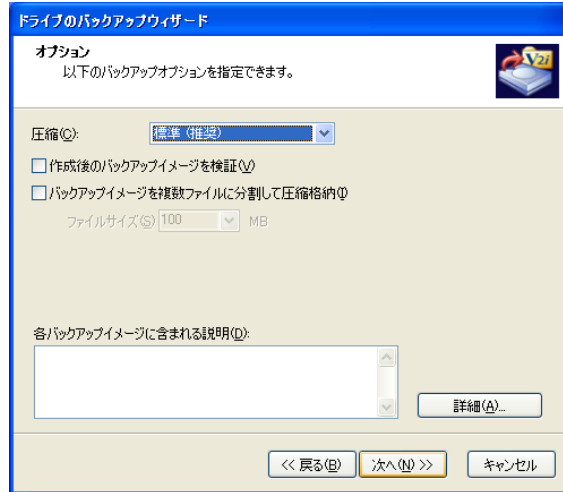


図 4-8

10. 「ドライブバックアップウィザードの完了」という画面が表示されます。

表示されている内容が指定された通りになっていることを確認し、[次へ] をクリックしてください。

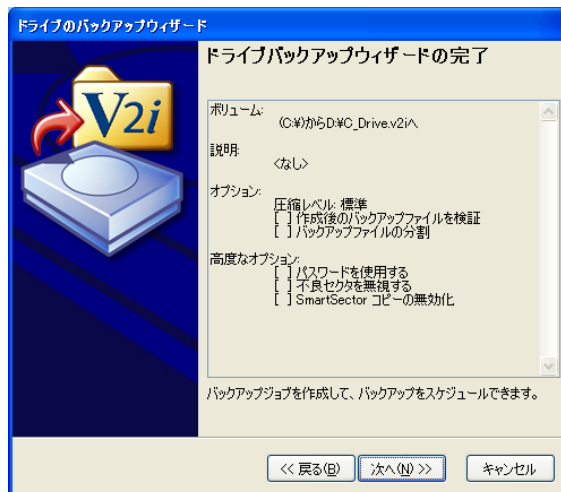


図 4-9

11. バックアップが開始されます。

バックアップを中止したい場合には、[キャンセル]をクリックしてください。

[隠す]をクリックすると、バックアップ中のウィンドウが閉じられますが、バックアップは行われています。

バックアップ中かどうかを見分ける方法：

- ・画面下部に進行状況が表示されている（図 4-10）
- ・[キャンセル]がクリックできる（図 4-11）

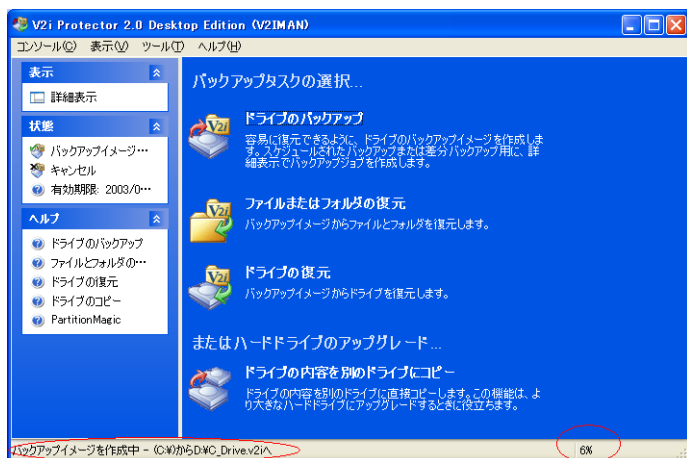


図 4-10

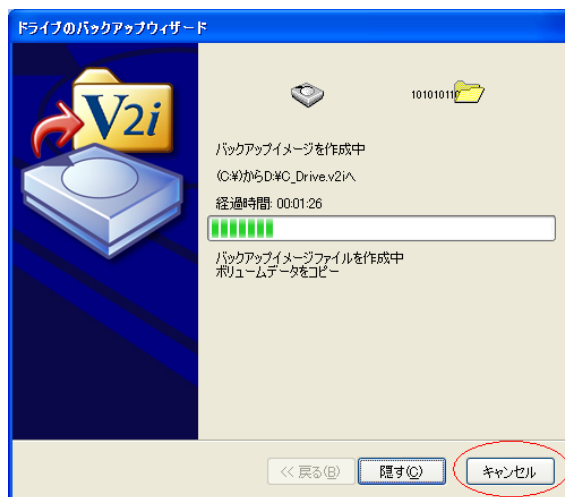


図 4-11

12. [隠す] をクリックしなかった場合には、バックアップが終了したことを確認し、[隠す] をクリックして、ウィンドウを閉じてください。

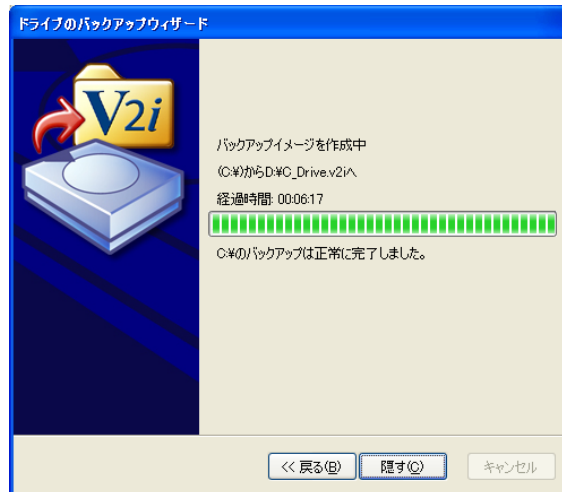


図 4-12

< 参考 : バックアップファイルの確認 >

マイコンピュータでイメージファイルを保存した場所を開くと、以下のようなファイルが作成されています。

- v2iman.sv2i
PQRE から復元を行う場合に利用することがあります。
ファイル名は、無条件にコンピュータ名を使用します。
ここでは、コンピュータ名を「v2iman」にしています。
- C_Drive.v2i
バックアップファイル

再度バックアップウィザードを起動すると[最後のバックアップ]という項目に、バックアップを行った日時が表示（または更新）されます。

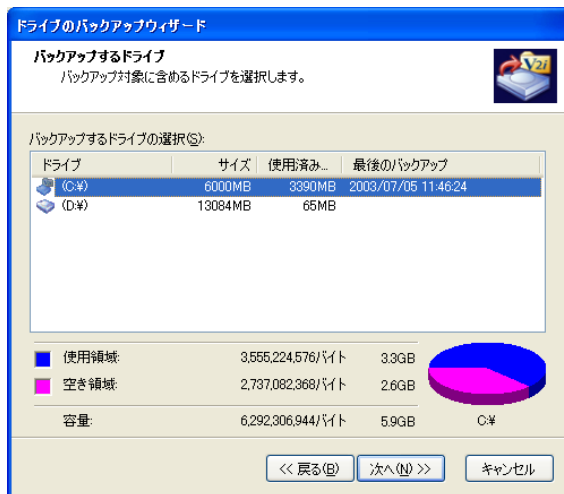


図 4-13

4-2. D ドライブに保存したバックアップを C ドライブに復元したい

前のセクションで、C ドライブのイメージを D ドライブにバックアップする方法を説明しましたが、このセクションでは、それをまた C ドライブに復元する方法を説明します。

1. V2i Protector の製品 CD-ROM から起動してください。

「PQRE」の画面が表示されます。

注意： PQRE の起動方法については、4 ページの「第 1 章：はじめに確認すること（PowerQuest Recovery Environment での起動確認）」を参照してください。

2. [System Restore] をクリックしてください。



図 4-14

3. 「Welcome to the System Restore Wizard 」という画面になります。
[Restore drives] にチェックが入っていることを確認して [Next] をクリックしてください。

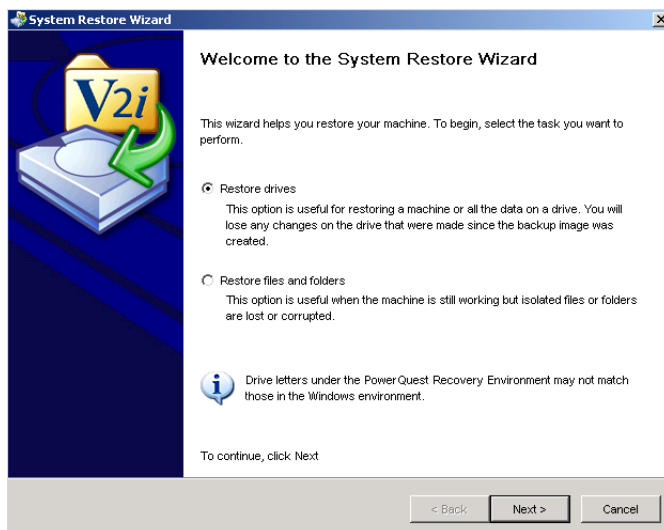


図 4-15

4. 「Restore Type」という画面になります。

[Single drive] にチェックが入っていることを確認して [Next] をクリックしてください。

注意： C ドライブと D ドライブといったように 2 つ以上のドライブを同時に復元する場合には、[Multiple drive] を選択してください。

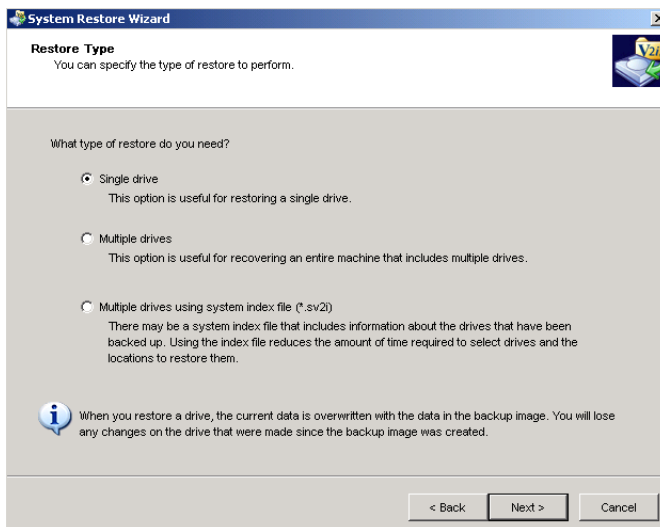


図 4-16

5. 「Backup Image to Restore 」という画面が表示されます。
[Browse...] をクリックすると「Open 」という画面になります。

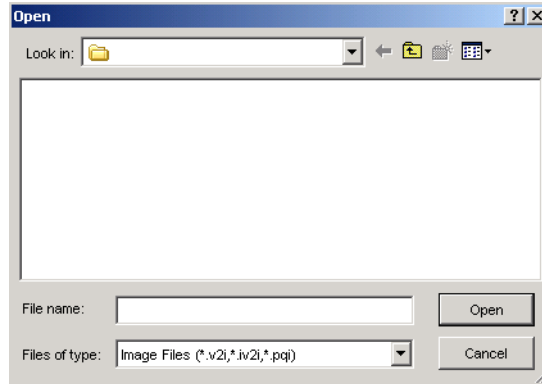


図 4-17

[Look in:] の横にある （下向きの三角）をクリックして、復元するファイルの格納されているドライブを選択してください。

注意： Windows 上のドライブ文字と一致しない場合があります。

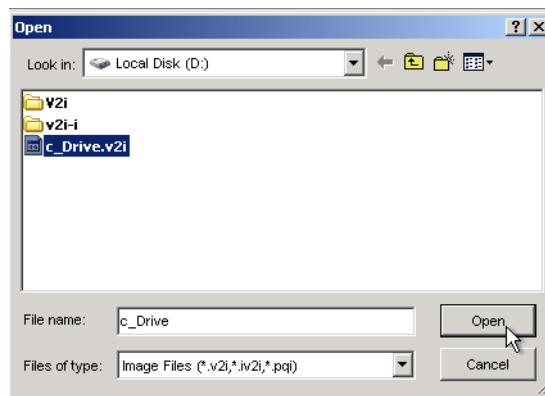


図 4-18

6. 復元したいイメージファイルを指定して、[Open] をクリックしてください。
フォルダ内に保存した場合は、バックアップを行ったフォルダを開いてイメージファイルを指定してください。
ここでは「C_Drive.v2i」を選択します。

増分バックアップで特定の時点に復元する場合には、拡張子が iv2i になっているものを選択します。

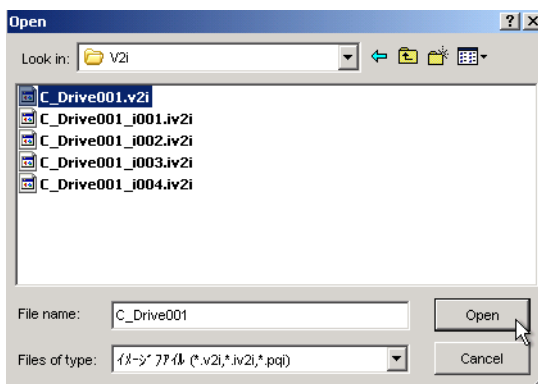


図 4-19

7. バックアップイメージのフォルダとファイル名に選択したファイル名が入ります。
[Next] をクリックしてください。

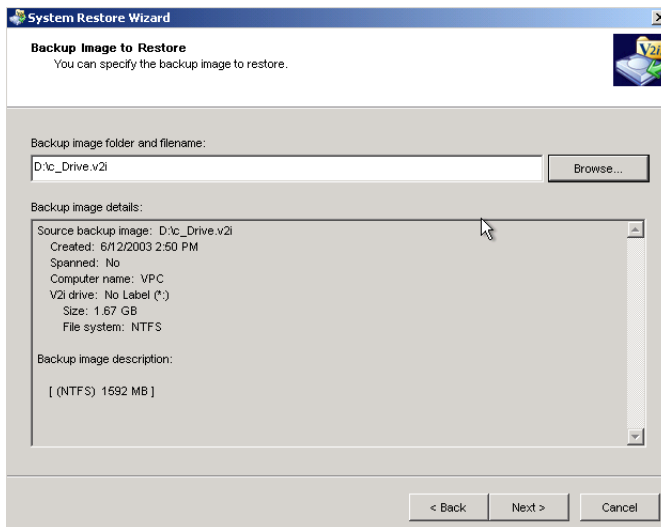


図 4-20

8. 「Restore Destination 」という画面で復元先の選択を行います。

今回は元の場所に復元するので、ディスク 1 の先頭にあるパーティションを選択して、[Next] をクリックします。

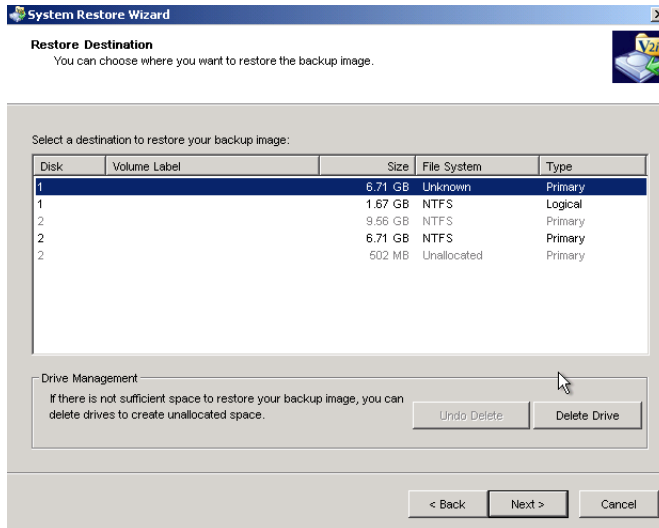


図 4-21

9. 「Restore Options 」という画面で復元オプションを選択します。

今回は OS を起動する領域の復元なので [Set drive active (for booting OS)] にチェックを入れます。これは、OS を起動するためにドライブをアクティブに設定するという意味です。

また、Windows 2000/XP の場合には [Restore original disk signature] にチェックを入れることをお奨めします。

注意： バックアップをとったときと同じ「ディスク署名」を復元しないと、Windows 2000/XP が起動できない場合があります。

必要な項目を選択し、[Next] をクリックします。

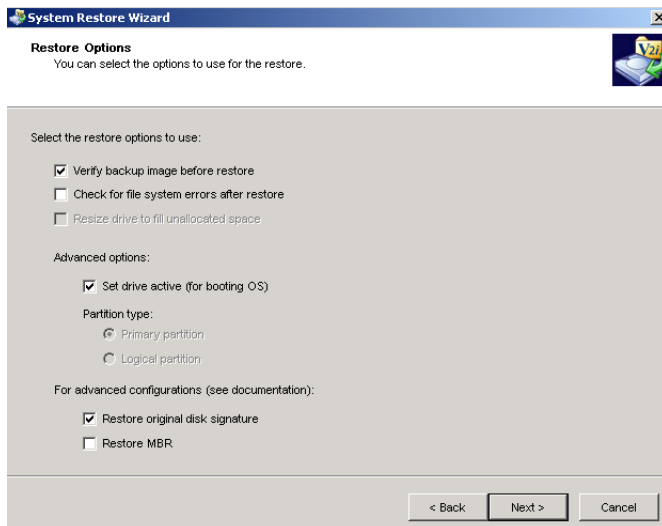


図 4-22

10. 「Completing the System Restore Wizard」が表示されます。

通常は、復元後に再起動を行うように [Reboot after finish] にチェックを入れて [finish] をクリックします。

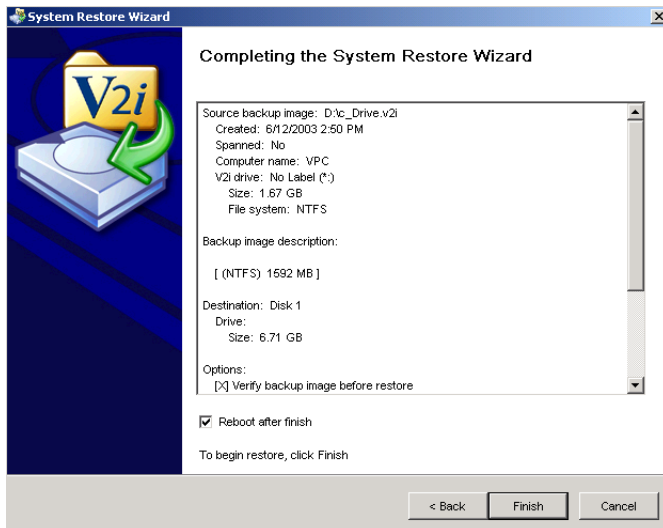


図 4-23

11. 処理を続行して復元を開始するかどうかを問うメッセージが表示されます。

" You will lose any changes on the drive that were made since the backup image was created. Current data is overwritten with the data in the backup image.

Do you want to continue and start the restore? "

これは、復元を行うと復元先の内容がバックアップをとった時点の内容に書き換えられるが、続行してもよいかどうかを確認しています。

復元先のパーティションにあるデータが消えても問題がない場合には、[Yes] をクリックしてください。

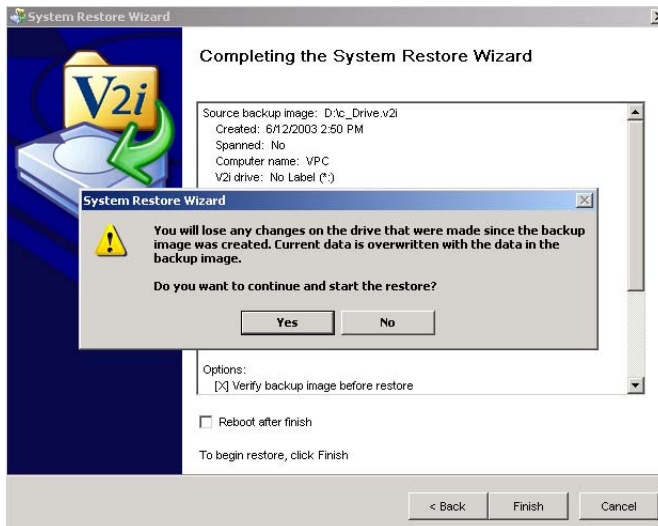


図 4-24

12. 「System Restore Wizard Progress」が表示され、終了すると自動的に再起動が行われます。復元後に Windows が起動することを確認してください。

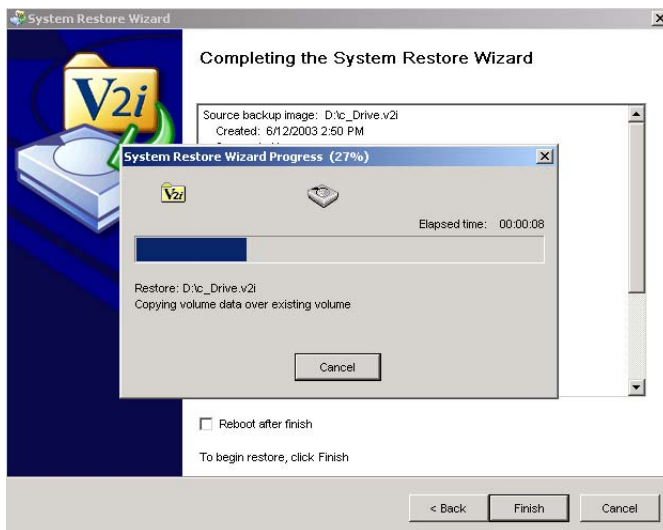


図 4-25

PQRE の起動に使用した V2i Protector の製品 CD は、Windows が起動した後に CD トレイから、取り出しても問題はありません。

なお、[Reboot after finish] にチェックを入れなかった場合には、以下のような画面が表示されます。

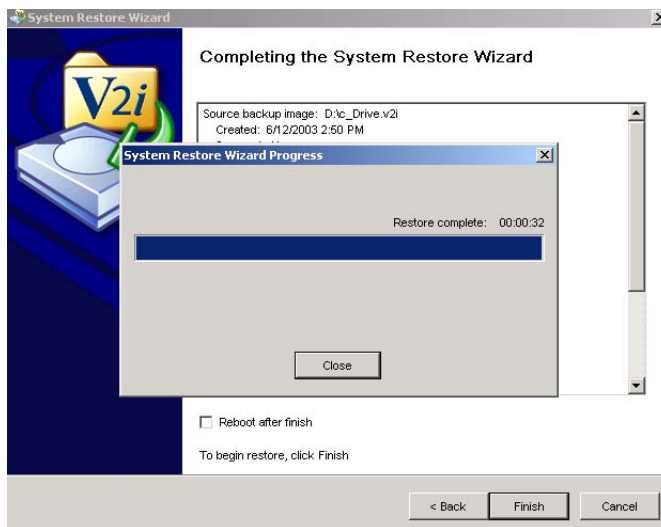


図 4-26

[Close] をクリックすると、「PQRE」の画面に戻ります。

[Restart] をクリックしてください。

注意：この画面でリセットボタンをクリックしたり、電源を切ると PC で設定されている時間が変更されます。

" Your machine will now be restarted. Do you want to continue? " というメッセージが表示されるので [Yes] をクリックして再起動を行ってください。



図 4-27

第 5 章：CD/DVD へのバックアップと復元

この章では、C ドライブのイメージファイルを 3 枚の CD-R に保存し、それを復元する操作を例に、C ドライブのイメージを丸ごと CD/DVD にバックアップする方法を説明します。

5-1. C ドライブのバックアップを CD/DVD にとりたい

1. [スタート] [すべてのプログラム] [PowerQuest V2i Protector] [V2i Protector Desktop Edition] で V2i Protector を起動してください。

注意： Windows 2000 の場合には、[すべてのプログラム] の部分が [プログラム] になります。

2. ドライブのバックアップをクリックしてください。

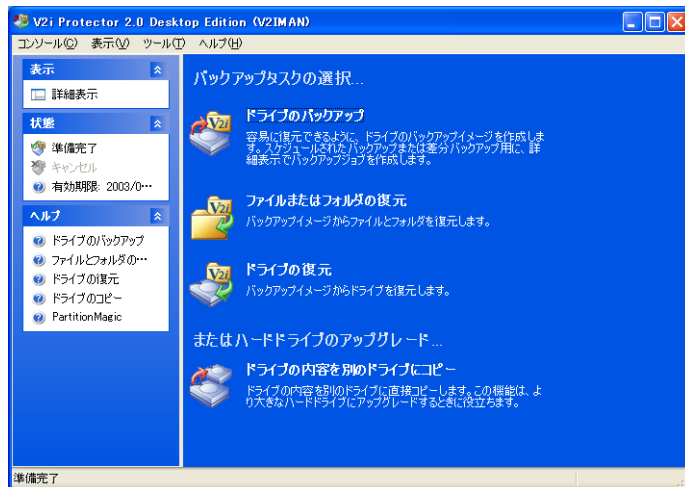


図 5-1

3. 「ドライブバックアップウィザードへようこそ」という画面が表示されます。
[次へ] をクリックしてください。

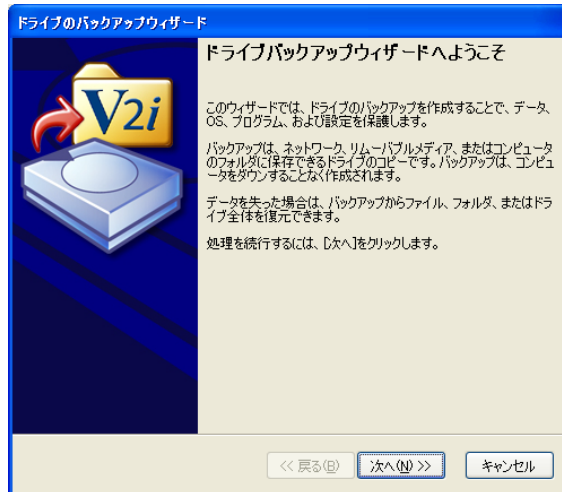


図 5-2

4. バックアップを行うドライブを選択して、[次へ] をクリックしてください。
ここでは、C ドライブが選択されています。

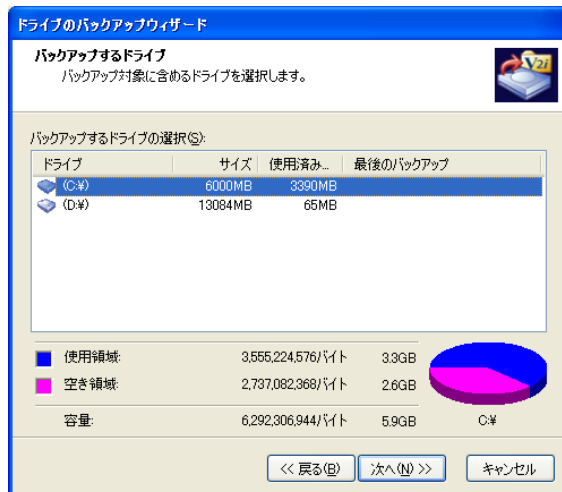


図 5-3

5. バックアップを保存する場所を選択します。

今回は CD-R にバックアップをとりますので、[CD-RW/DVD-RW] を選択して、[参照] をクリックします。

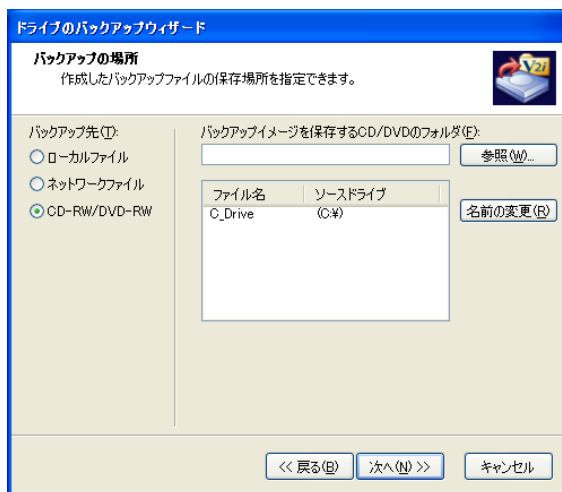


図 5-4

6. 「フォルダの参照」という画面が開きます。

ここでは、E ドライブにバックアップをとりますので、ローカルディスク (E:) を選択して、[OK] をクリックします。

注意： ローカルディスク (E:) が CD のアイコンになっていることを確認してください。

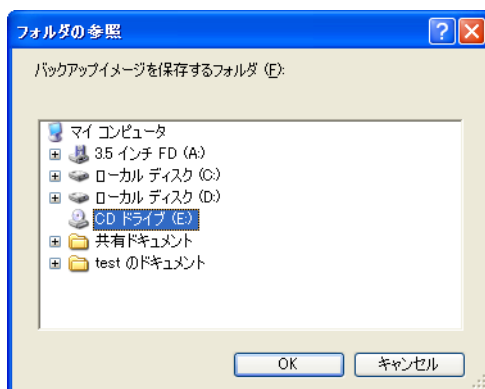


図 5-5

7. バックアップイメージを保存するフォルダの部分に「E:¥」と表示されます。

通常 C ドライブのバックアップをとるときのファイル名は「C_Drive」になります。

ここでは、標準的なファイル名でバックアップ行いますが、必要に応じて [名前の変更] でファイル名を変更してください。

[次へ] をクリックしてください。

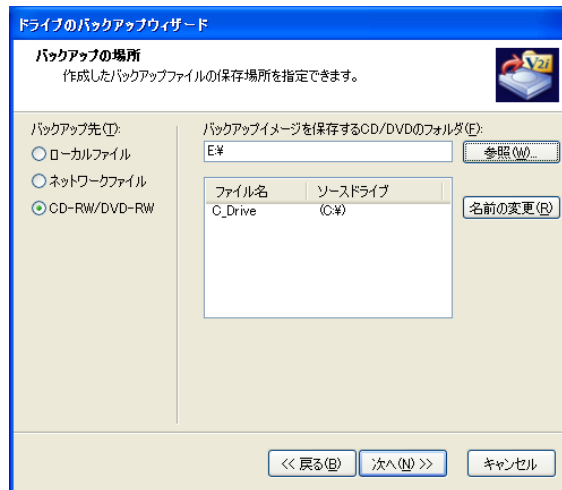


図 5-6

8. 「オプション」という画面が表示されます。

必要に応じて、圧縮率の変更、オプションの選択、イメージファイルにつけるコメントを指定します。

ここでは、何も指定せずに [次へ] をクリックします。

注意： 分割サイズを指定することはできません。

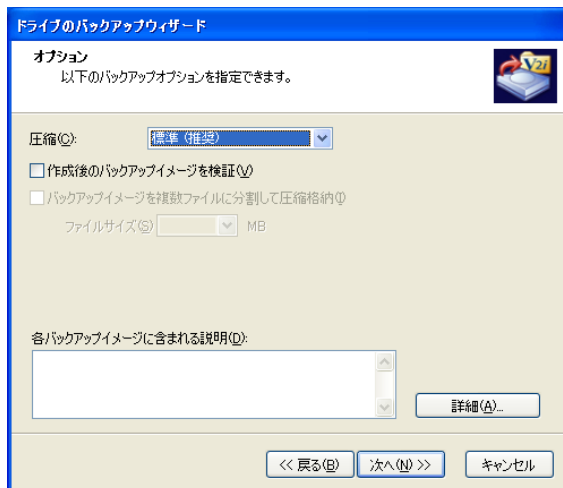


図 5-7

9. 「ドライブバックアップウィザードの完了」という画面が表示されます。

表示されている内容が指定された通りになっていることを確認し、[次へ] をクリックしてください。

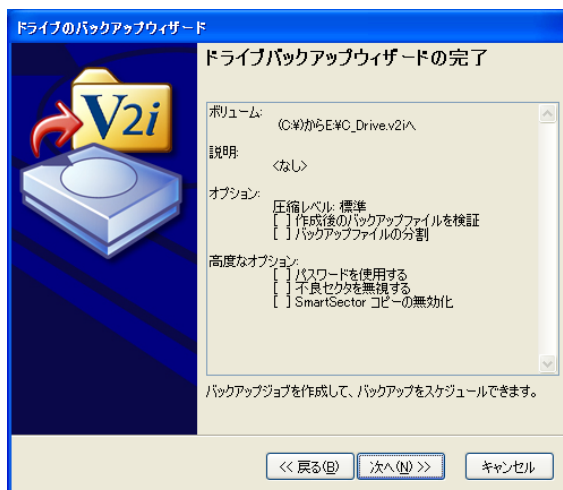


図 5-8

10. バックアップが開始されます。

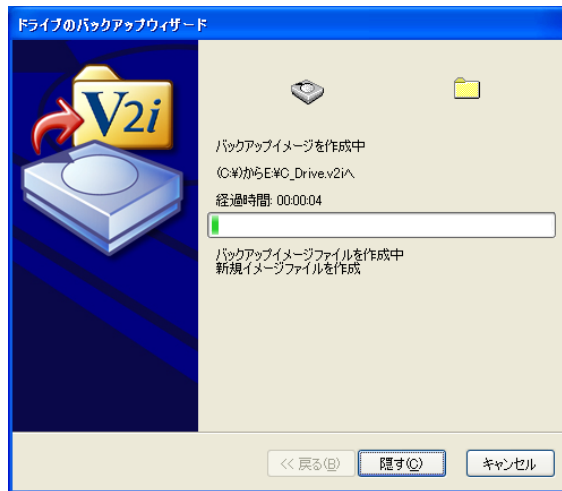


図 5-9

何も記録されていないCD/DVD がドライブ内に挿入されていない場合には、「待機中」という画面が表示されます。



図 5-10

その場合には、何も記録されていないCD/DVD を指定したドライブに入れて [OK] をクリックしてください。

注意： Windows XP の場合には、「空のCD」という画面が表示される場合があります。
[何もしない] を選択して、[OK] をクリックしてください。

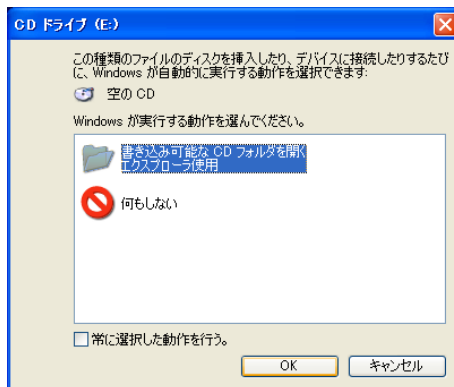


図 5-11

11. 書き込みが始まります。

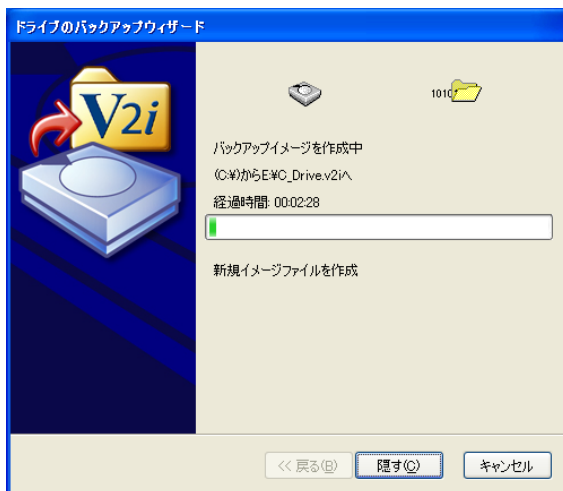


図 5-12

必要に応じて 2 枚目、3 枚目のメディアが要求されます。
指示に従ってメディアを入れ替えてください。



図 5-13

バックアップを中止したい場合には、[Cancel] ([キャンセル]) をクリックします。

ただし、バックアップをキャンセルしても書き込みを行ったメディアを何も書かれていない状態に戻すことはできません。

[隠す] をクリックしても、バックアップ中のウィンドウが閉じられるだけで、バックアップは行われています。

<参考 1: バックアップ中かどうかを見分ける方法>

- 画面下部に進行状況が表示されている
- [キャンセル] がクリックできる

[隠す] をクリックしなかった場合には、図 5-14 のような画面が表示されます。

[隠す] をクリックして画面を閉じてください。

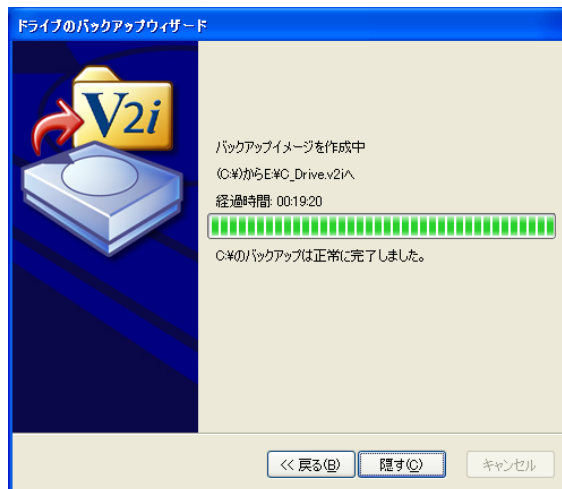


図 5-14

<参考 2：バックアップファイルの確認>

バックアップをとった CD 内のファイルは、以下のようになっています。

- 1 枚目の CD 内にあるファイル - C_Drive.v2i
 - 2 枚目の CD 内にあるファイル - C_Drive_s01.v2i
 - 3 枚目の CD 内にあるファイル - C_Drive_s02.v2i
- と続きます。

注意：sv2i という拡張子の付く V2i ファイルインデックス情報は作られません。

v2i で [最後のバックアップ] という項目に、バックアップを行った日時が表示（または更新）されます。

なお、バックアップ後に V2i Protector を起動すると以下のようなメッセージが表示される場合があります。その場合には [キャンセル] をクリックしてください。

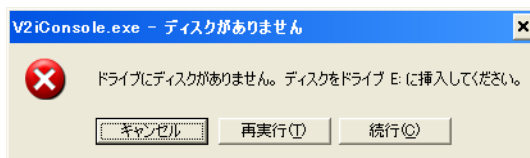


図 5-15

5-2. CD/DVD から C ドライブに復元したい

このセクションでは、Windows の起動ドライブをバックアップした 3 枚組の CD から復元する方法を例にして、その操作について説明します。

1. V2i Protector の製品 CD-ROM から起動してください。

「PQRE」の画面が表示されます。

注意： PQRE の起動方法については、4 ページの「第 1 章：はじめに確認すること（PowerQuest Recovery Environment での起動確認）」を参照してください。

2. [System Restore] をクリックしてください。



図 5-16

3. 「Welcome to the System Restore Wizard」という画面になります。
[Restore drives] にチェックが入っていることを確認して [Next] をクリックしてください。

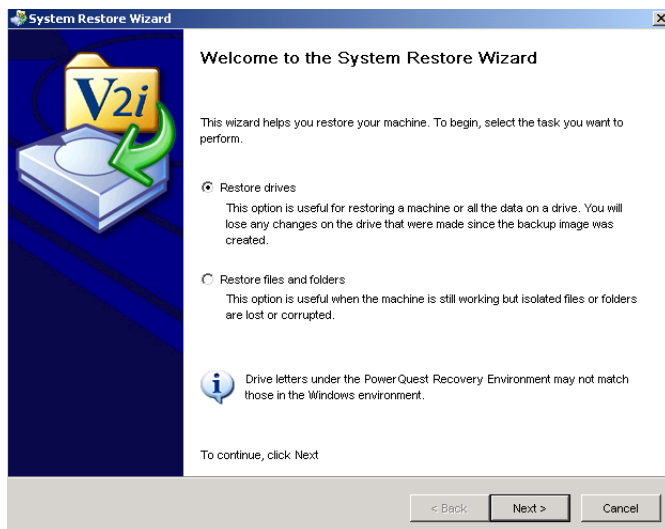


図 5-17

4. 「Restore Type 」という画面になります。

[Single drive] にチェックが入っていることを確認して [Next] をクリックしてください。

注意： C ドライブと D ドライブといったように 2 つ以上のドライブを同時に復元する場合には、[Multiple drive] を選択してください。

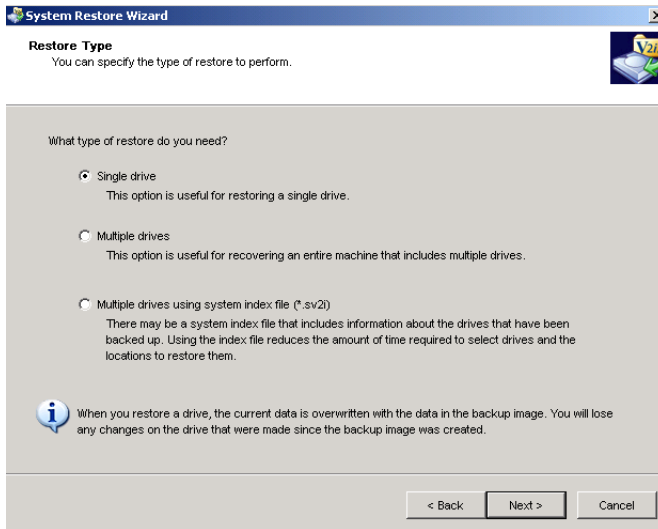


図 5-18

5. 「Backup Image to Restore 」という画面が表示されます。

[Browse...] をクリックすると「Open 」という画面になります。

ここで V2i Protector の製品 CD を抜いて、復元する CD/DVD の 1 枚目に入れ替えてください。

6. [Look in:] の横にある （下向きの三角）をクリックして、復元するファイルが格納されているドライブを選択してください。

注意： Windows 上のドライブ文字と一致しない場合があります。

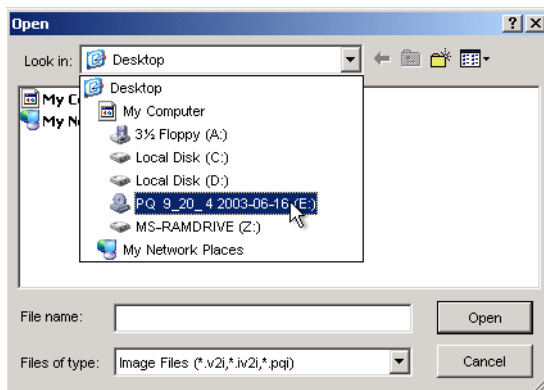


図 5-19

7. バックアップを行ったファイル名を指定して、[Open] をクリックしてください。
ここでは「C_Drive.v2i」を例にします。

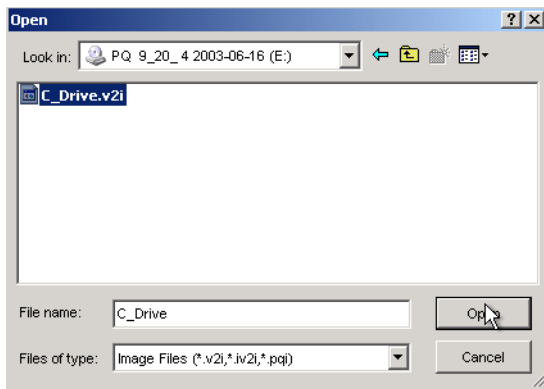


図 5-20

すぐに " Insert the last media of the backup set into drive E:" というメッセージが表示されるので、最後のメディアに入れ替えて [OK] をクリックしてください。

「drive E:」は、PQRE によって割り当てられた CD のドライブ文字です。
復元するイメージが CD3 枚組の場合には、3 枚目の CD を入れます。

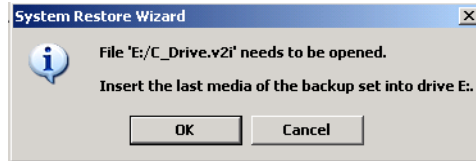


図 5-21

<参考：2 枚目以降のメディア内にあるバックアップファイルを指定した場合>

2 枚目以降のメディア内にあるバックアップファイルを指定すると、図 5-22 のようにエラーメッセージが表示されます。

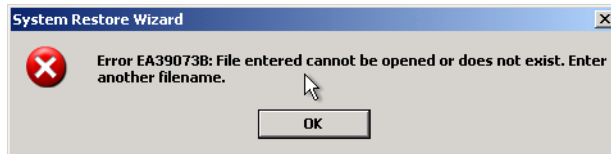


図 5-22

- 最後のメディアの認識ができると "Insert the first media of the backup set into drive E:" というメッセージが表示されるので、1 枚目のメディアに入れ替えて [OK] をクリックしてください。



図 5-23

- バックアップイメージの情報が表示されます。[Next] をクリックしてください。

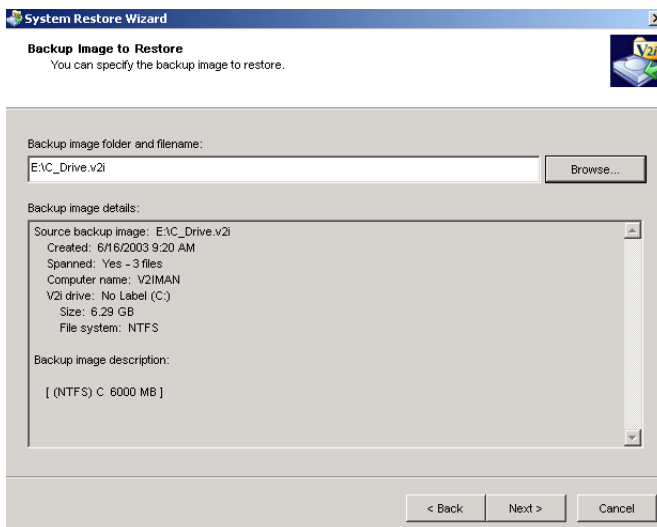


図 5-24

10. 「Restore Destination」 という画面で復元先の選択を行います。

今回は元の場所に復元するので、ディスク 1 の先頭にあるパーティションを選択して、[Next] をクリックします。

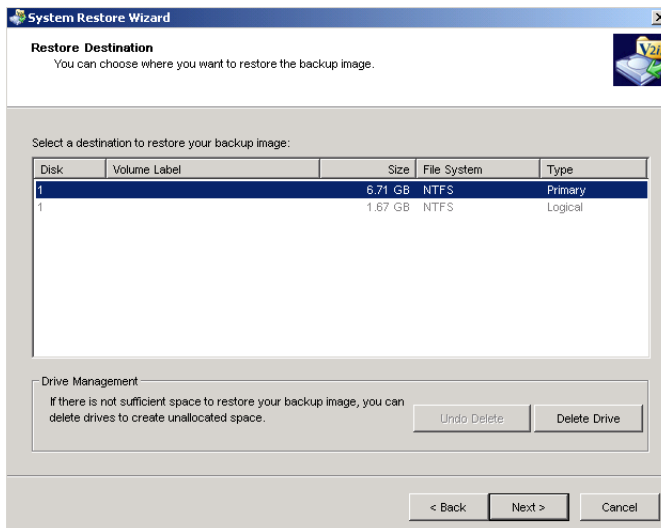


図 5-25

11. 「Restore Options」 という画面で復元オプションを選択します。

今回は OS を起動する領域の復元なので [Set drive active (for booting OS)] にチェックを入れます。これは、OS を起動するためにドライブをアクティブに設定するという意味です。

また、Windows 2000/XP の場合には [Restore original disk signature] にチェックを入れることをお奨めします。

注意： バックアップをとったときと同じ「ディスク署名」を復元しないと、Windows 2000/XP が起動できない場合があります。

必要な項目を選択し、[Next] をクリックします。

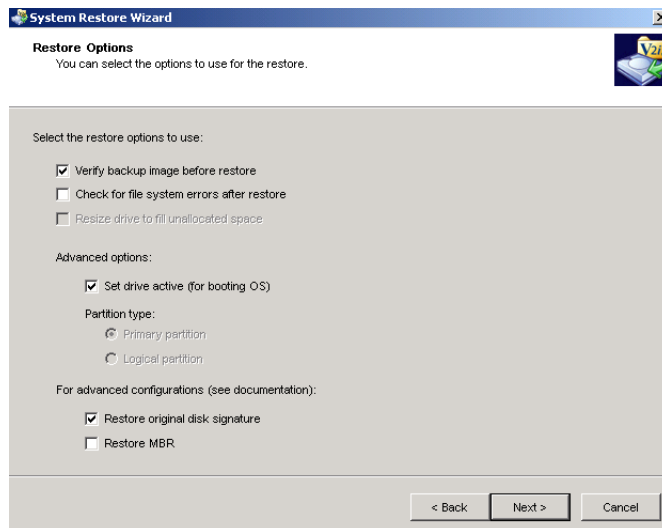


図 5-26

12. 「Completing the System Restore Wizard」が表示されます。

通常は、復元後に再起動を行うように [Reboot after finish] にチェックを入れて [Finish] をクリックします。

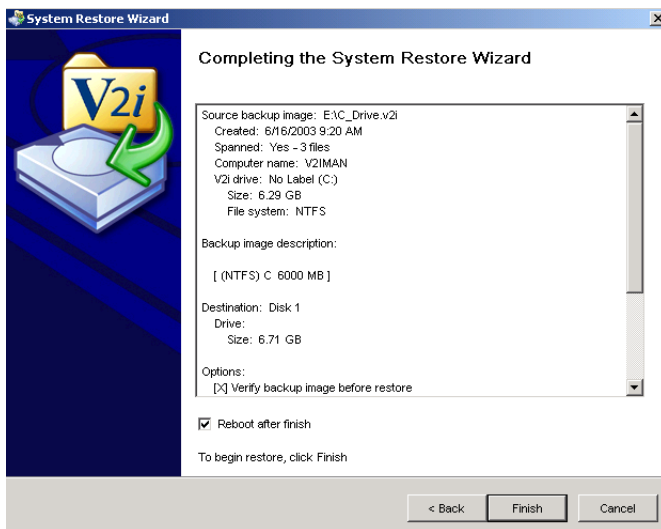


図 5-27

13. 処理を続行して復元を開始するかどうかを問うメッセージが表示されます。

" You will lose any changes on the drive that were made since the backup image was created. Current data is overwritten with the data in the backup image.

Do you want to continue and start the restore? "

これは、復元を行うと復元先の内容がバックアップをとった時点の内容に書き換えられるが、続行してもよいかどうかを確認しています。

復元先のパーティションにあるデータが消えても問題がない場合には、[Yes] をクリックしてください。

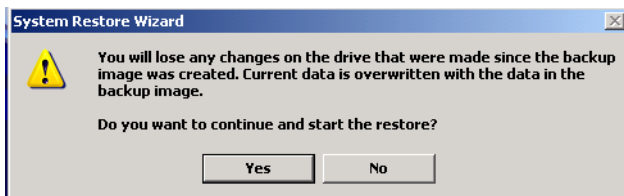


図 5-28

14. 「System Restore Wizard Progress」が表示され、すぐに "Insert the last media of the backup set into drive E:" というメッセージが表示されるので、最後のメディアに入れ替えて [OK] をクリックしてください。

今回復元するイメージが CD3 枚組の場合には、3 枚目の CD を入れます。

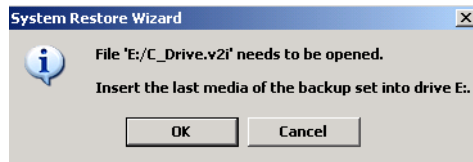


図 5-29

15. 最後のメディアの認識ができると "Insert the first media of the backup set into drive E:" というメッセージが表示されるので、1 枚目のメディアに入れ替えて [OK] をクリックしてください。

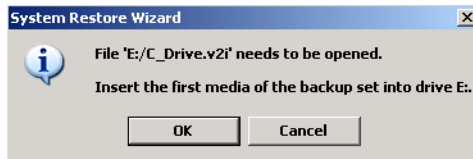


図 5-30

16. 「System Restore Wizard Progress」が表示され、メディアの検証が始まります。

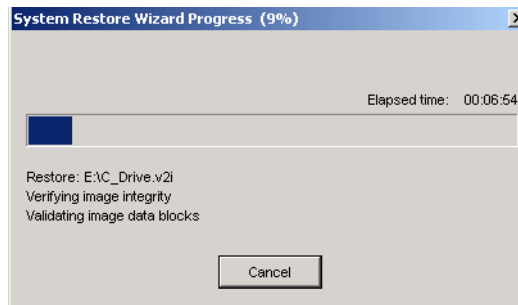


図 5-31

17. " Insert media 2 containing " というメッセージが 2 枚目のメディアへの入れ替えの要求です。
1 枚目のメディアを取り出して 2 枚目のメディアに入れ替えて、[OK] をクリックしてください。

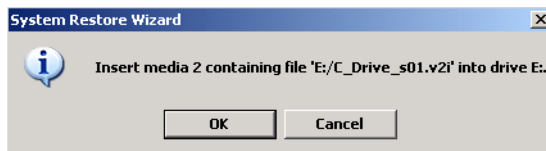


図 5-32

18. " Insert media 3 containing " というメッセージが 3 枚目のメディアへの入れ替えの要求です。
指示に従い 3 枚目に入れ替えて [OK] をクリックします。
これ以上の枚数に分割されている場合には、指示に従いメディアを入れ替えてください。

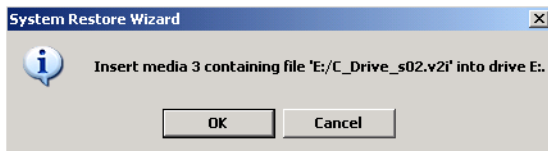


図 5-33

19. メディアの検証が終了すると、" Insert the first media of the backup set into drive E: " というメッセージが表示されるので、1 枚目のメディアに入れ替えて [OK] をクリックしてください。復元が開始されます。



図 5-34

後は、メッセージに従って 2 枚目、3 枚目と順番に入れ替えてください。

20. 最後のメディアの処理が終了すると " Insert the first media of the backup set into drive E: " というメッセージが表示されるので、1 枚目のメディアに入れ替えて [OK] をクリックしてください。



図 5-35

21. 終了すると自動的に再起動が行われます。

復元後に Windows が起動することを確認してください。

復元に利用した CD は、Windows が起動した後に CD トレイから、取り出しても問題はありません。

なお、[Reboot after finish] にチェックを入れなかった場合には、[Close] をクリックしてください。「PQRE」の画面に戻ります。

[Restart] をクリックしてください。

" Your machine will now be restarted. Do you want to continue? " というメッセージが表示されるので [Yes] をクリックして再起動を行ってください。



図 5-36

注意：Windows 上の V2i Protector で、Windows を起動する領域を CD/DVD から復元しようとした場合には、"Restore operation returned error code 0xEBAB0013 " というメッセージが表示されます。直接製品 CD (PQRE) から復元するようにしてください。

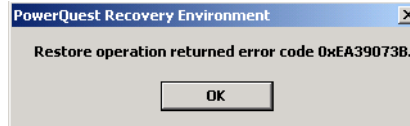


図 5-37

なお、ここで [OK] をクリックすると

" The Recovery Environment was unable to complete the restore operation.Select RecoveryWizard from Recovery Environment to manually complete the restore."

というメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると Power Quest Recovery Environment が表示されるので、[System Restore] をクリックし、改めて復元の処理を行ってください。



図 5-38

第 6 章：応用編

6-1. 特定のファイルを取り出したい (PowerQuest Backup Image Browser を使う)

このセクションでは、V2i Protector の PowerQuest Backup Image Browser を使って、バックアップイメージ内の特定のファイルを取り出す方法を説明します。

1. [スタート] [すべてのプログラム] [PowerQuest V2i Protector] [V2i Protector Desktop Edition] で V2i Protector を起動してください。

注意：Windows 2000 の場合には、[すべてのプログラム] の部分が [プログラム] になります。

2. ファイルまたはフォルダの復元をクリックしてください。

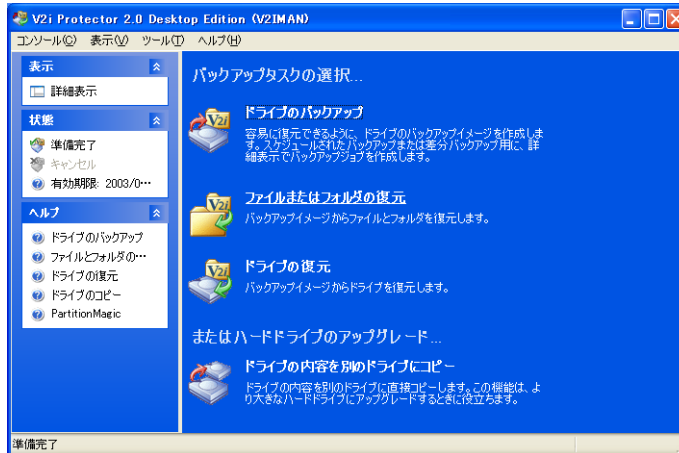


図 6-1

3. 復元したいファイルの入っているイメージファイルを選択してください。
ここでは、C_Drive.v2i を選択します。

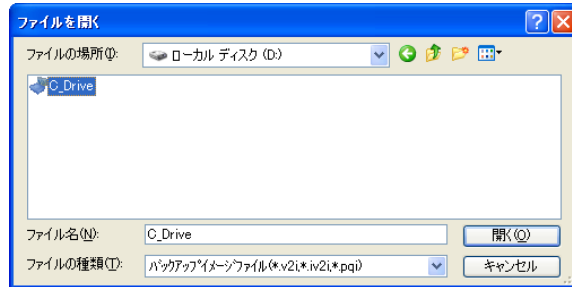


図 6-2

4. PowerQuest Backup Image Browser が開きます。

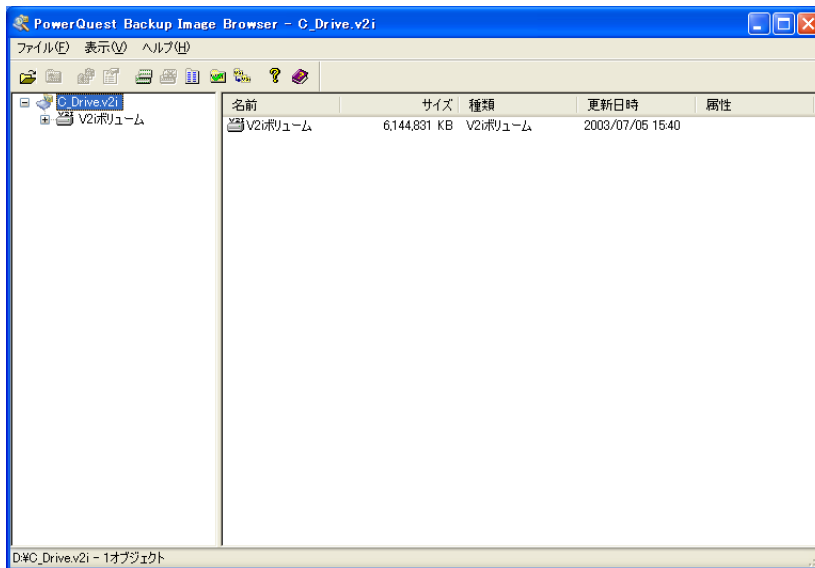


図 6-3

5. V2i ボリュームを開き、復元したいファイルを選択してください。

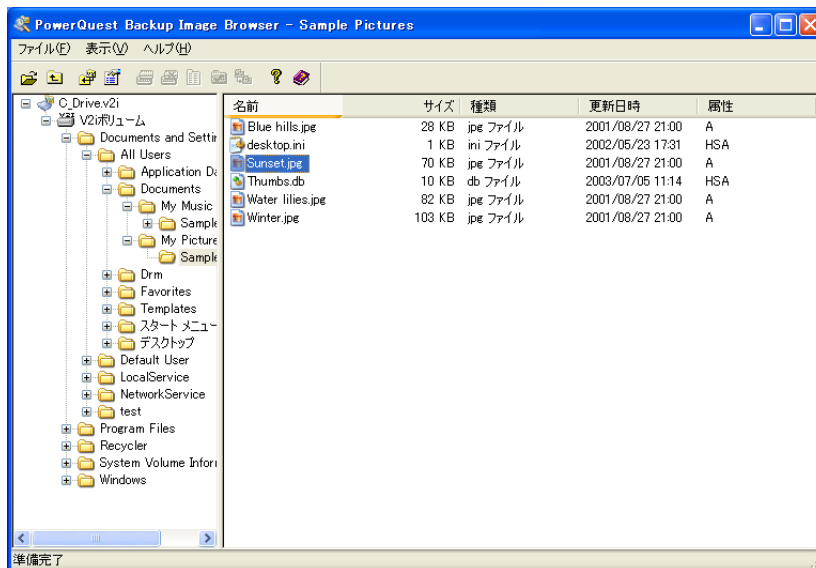


図 6-4

6. 該当するファイルを右クリックして、[復元] を選択してください。

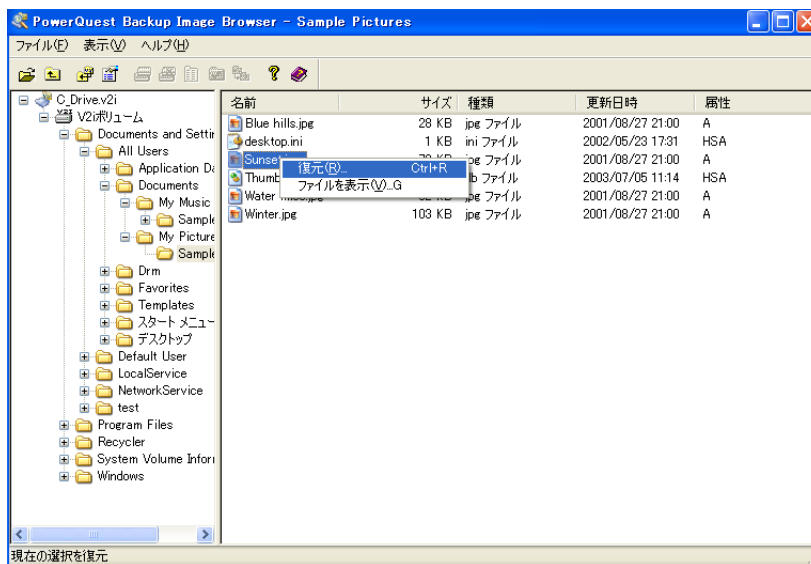


図 6-5

7. 「アイテムの復元」という画面が表示されます。

元の場所に戻す場合には、[復元] をクリックしてください。別の場所に復元する場合は、[参照] で、復元先を指定します。

ここでは、デスクトップに復元するので、[参照] をクリックします。

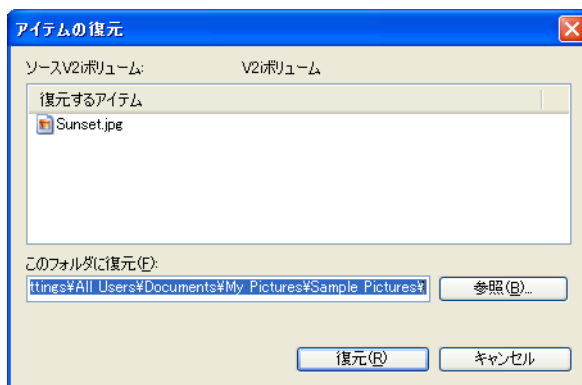


図 6-6

8. 「フォルダの参照」という画面が表示されます。

復元先を選択してください。ここでは、デスクトップを選択して [OK] をクリックします。

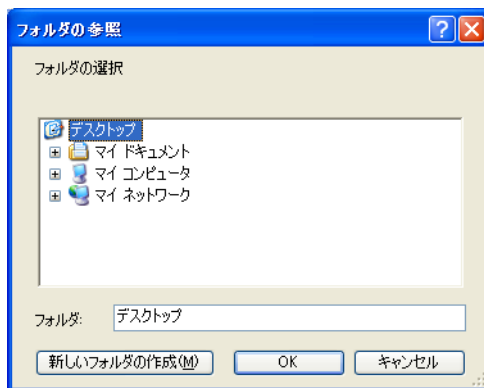


図 6-7

9. [復元] をクリックしてください。

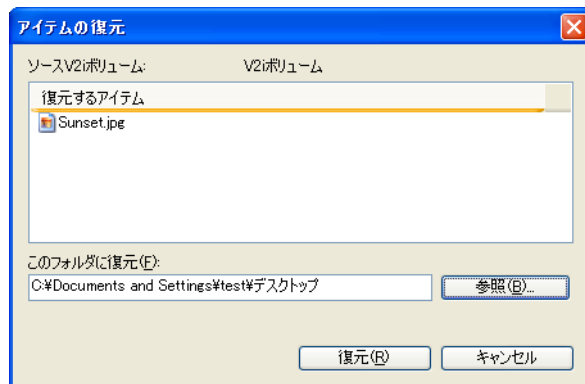


図 6-8

指定したファイルが復元されれば完了です。

6-2. 増分バックアップを行いたい (Cドライブの増分バックアップをDドライブにとりたい)

このセクションでは、V2i Protector の「増分バックアップ機能」を使って、Cドライブで更新された情報をDドライブに定期的にバックアップする方法について説明します。

ドライブ単位のバックアップを行う場合には、以下のようなバックアップ方法があります。

完全バックアップ

完全バックアップは、ドライブの内容をすべてバックアップします。Drive Image は、この方法でバックアップをしています。

- 完全バックアップの長所
バックアップファイルがひとかたまりになっているので取り扱いやすい。
- 完全バックアップの短所
バックアップに時間がかかる場合がある。

増分バックアップ

増分バックアップは、初回のバックアップでドライブの内容をすべてバックアップします。

それ以降は、前回バックアップを行ってから、追加 / 変更されたファイルやフォルダのバックアップを行います。

- 増分バックアップの長所
2回目以降のバックアップは、完全バックアップと比較するとバックアップに要する時間が短くなり、バックアップファイルの量が減る。
- 増分バックアップの短所
増分バックアップによるバックアップファイルからの復元では、初回バックアップ時のファイル (*.v2i) と、それに連続したすべての増分バックアップファイル (*.iv2i) が揃っていないと、復元できない。
たとえば、3回目の増分バックアップを誤って削除してしまった場合には、4回目以降の増分バックアップファイルがあっても復元を行うことができない。

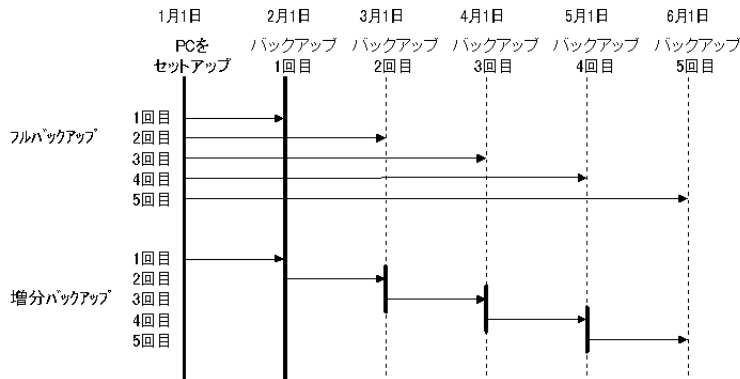


図 6-9

注意: 増分バックアップは、CD-R などのリムーバブルメディアに直接保存することはできません。

注意: V2i Protector のプログラム上や製品レビューには「差分」、「増分」の用語が混在していますが、V2i Protector は増分バックアップを行っています。

以下の操作では、ベースラインのバックアップをとった後、毎月 1 回基本バックアップを作成し、毎週 1 回増分バックアップをとる設定を行う方法について説明します。

1. [スタート] [すべてのプログラム] [PowerQuest V2i Protector] [V2i Protector Desktop Edition] で V2i Protector を起動してください。

注意: Windows 2000 の場合には、[すべてのプログラム] の部分が [プログラム] になります。

2. [詳細表示] をクリックします。

注意：増分バックアップは基本表示のウィザードからは作成することができません。

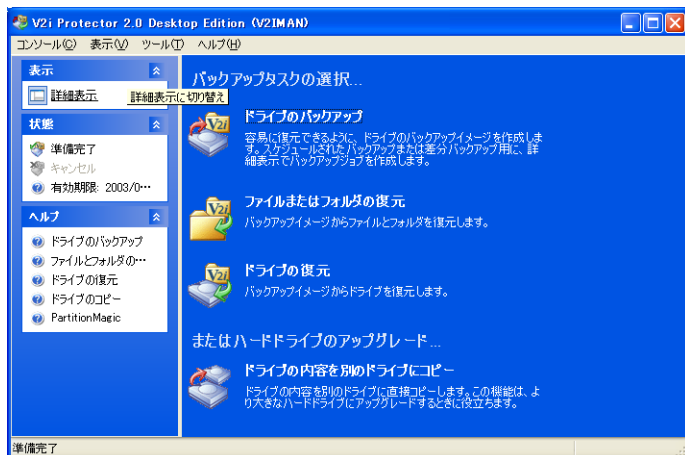


図 6-10

3. バックアップタスクオプションの中にある [バックアップジョブの作成] をクリックします。

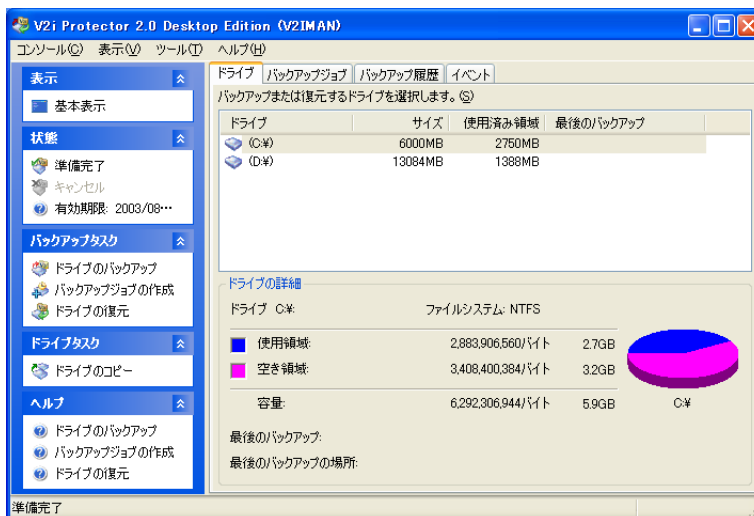


図 6-11

4. 「バックアップジョブウィザードへようこそ」という画面が表示されます。
[次へ] をクリックしてください。

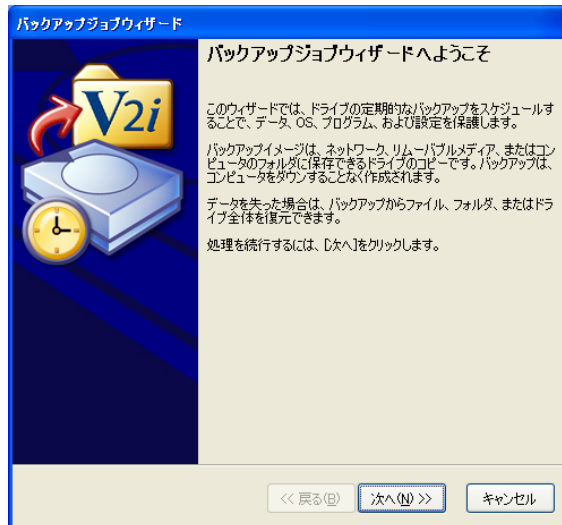


図 6-12

5. バックアップタイプが表示されます。
[増分を含むベースラインバックアップ] を選択し、[次へ] をクリックしてください。

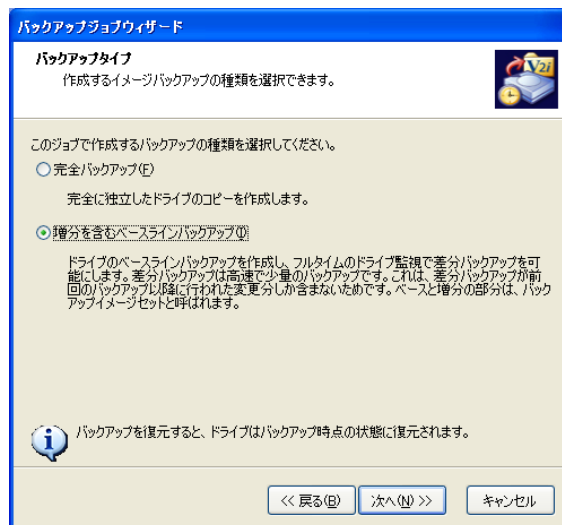


図 6-13

6. バックアップを行うドライブを選択して、[次へ] をクリックしてください。
ここでは、C ドライブが選択されています。

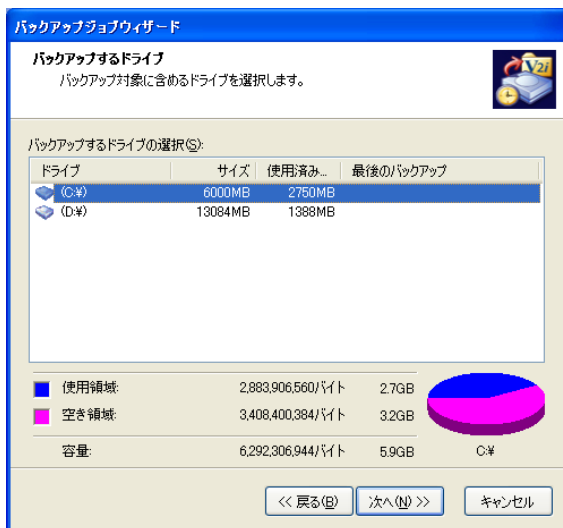


図 6-14

7. バックアップを行う場所を選択します。
ここでは、ハードディスク上の D ドライブにバックアップをとりますので、[ローカルファイル] を選択して、[参照] をクリックしてください。

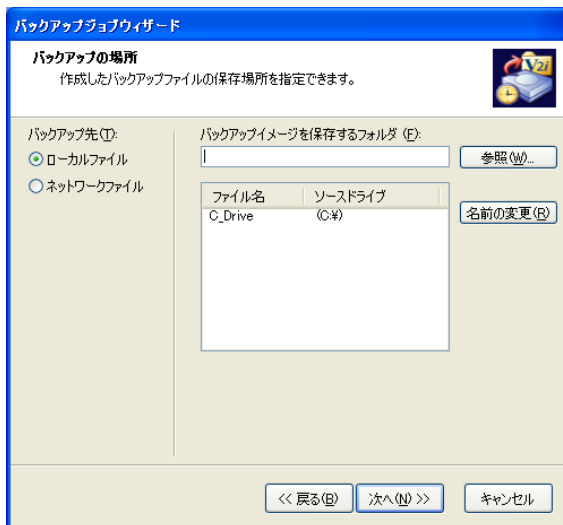


図 6-15

8. 「バックアップイメージを保存するフォルダ」という画面が表示されます。

ここでは、D ドライブにバックアップをとりますので、ローカルディスク (D:) を選択して、[OK] をクリックします。

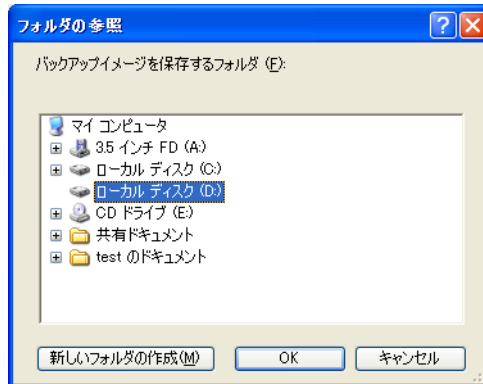


図 6-16

9. バックアップイメージを保存するフォルダの部分に「D¥:」と表示されます。

通常 C ドライブのバックアップをとるときのファイル名は「C_Drive」になります。

ここでは、標準的なファイル名でバックアップ行いますが、必要に応じて [名前の変更] でファイル名を変更してください。

[次へ] をクリックしてください。

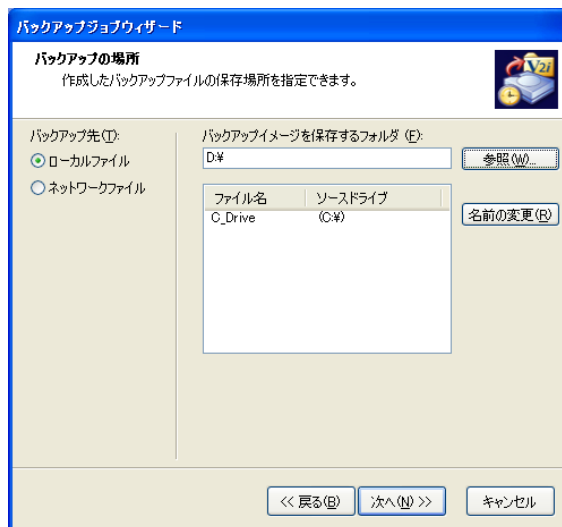


図 6-17

10. 「イメージのスケジュール」という画面になります。

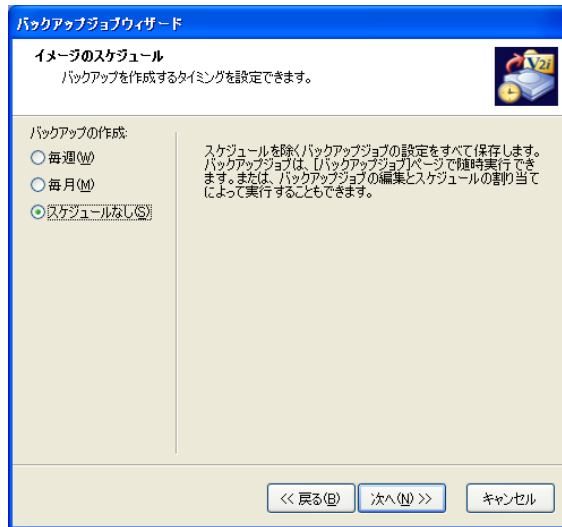


図 6-18

ここでは、毎月 1 日の 17:00 になったら基本バックアップを作成し、毎週金曜日の 18:00 になったら、増分バックアップをとる設定を行います。

バックアップの作成で、[毎月] を選択し、基本バックアップの日付で [1 日] にチェックを入れて、開始時刻を [17:00] に設定します。

また、増分バックアップで金曜日のみにチェックを入れて時間を [18:00] に設定します。

[次へ] をクリックしてください。



図 6-19

11. 「オプション」という画面が表示されます。

必要に応じて圧縮率を変更したり、オプションの選択、イメージファイルにつけるコメントを指定します。

ここでは、何も指定せずに [次へ] をクリックします。

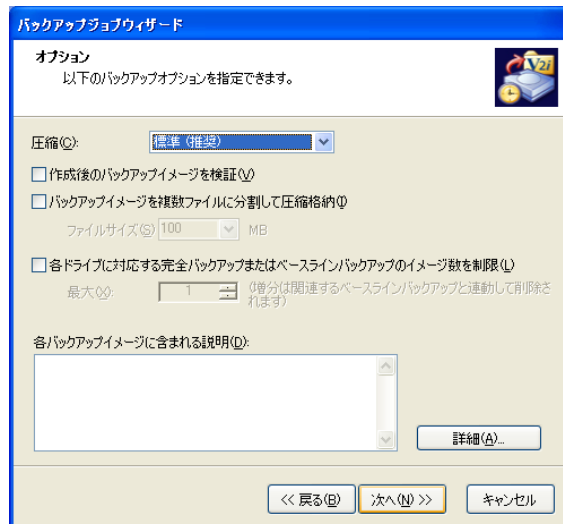


図 6-20

12. 「バックアップジョブウィザードの完了」という画面が表示されます。

通常は、ここで [ただちに最初のバックアップを作成する] にチェックを入れて [次へ] をクリックします。

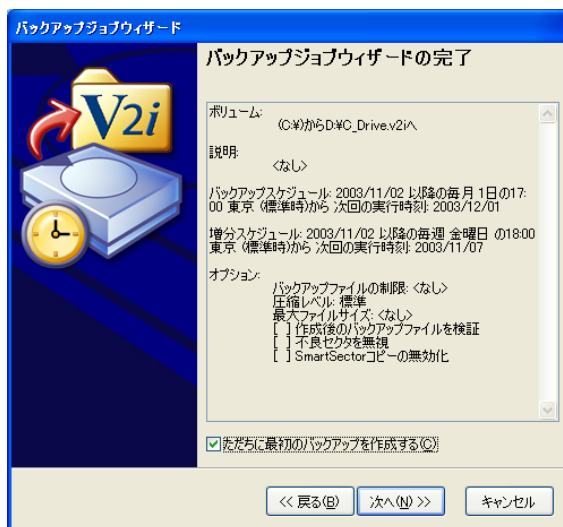


図 6-21

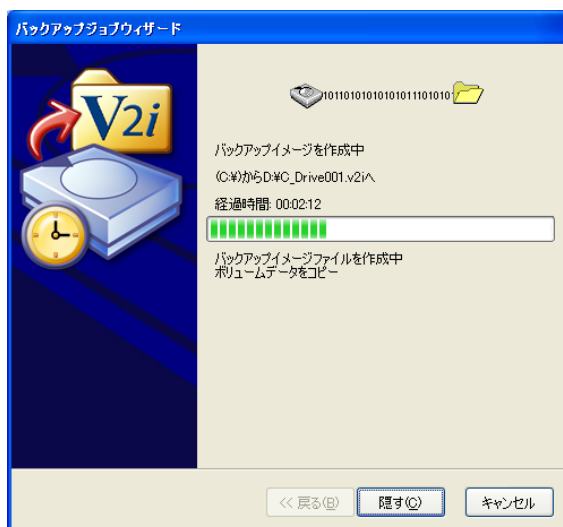


図 6-22

13. バックアップが開始されます。

バックアップを中止したい場合には、[キャンセル] をクリックしてください。

[隠す] をクリックすると、バックアップ中のウィンドウが閉じられますが、バックアップは行われています。

今後は、スケジュールに従って、定期的にバックアップをとります。

今回の例では、毎月 1 日の 17:00 に基本バックアップをとり、毎週金曜日の 18:00 に一週間分の変更部分を増分バックアップします。

注意： スケジュールを正しく動作させるためには、必ず Windows が起動している時刻を指定してください。コンピュータがスタンバイまたは、休止状態（ハイバネーション）であったため実行できなかったスケジュールは、Windows を再開しても次のバックアップ予定時刻まで正しく行われないことがあります。

<参考：バックアップファイルの確認>

「マイコンピュータ」でイメージファイルを保存した場所を開くと、以下のようなファイルが作成されています。

- v2iman.sv2i：PQRE から復元を行う場合に利用することがあります。
ファイル名は、無条件にネットワークコンピュータ名を利用します。
ここでは、ネットワークコンピュータ名にを「v2iman」にしています。
- C_Drive001.v2i：1 回目のベースバックアップファイルのファイル名（スケジュールの最初または「ただちに最初のバックアップを作成する」を選択した場合に作成されるイメージファイル名）
- C_Drive001_i001.iv2i：1 回目のベースバックアップファイルに対する 1 回目の増分バックアップファイルのファイル名
- C_Drive001_i002.iv2i：1 回目のベースバックアップファイルに対する 2 回目の増分バックアップファイルのファイル名
- C_Drive001_i003.iv2i：1 回目のベースバックアップファイルに対する 3 回目の増分バックアップファイルのファイル名
- C_Drive002.v2i：2 回目のベースバックアップファイルのファイル名（基本バックアップで指定した日時に作られます）
- C_Drive002_i001.iv2i：2 回目のベースバックアップファイルに対する 1 回目の増分バックアップファイルのファイル名
- C_Drive002_i002.iv2i：2 回目のベースバックアップファイルに対する 2 回目の増分バックアップファイルのファイル名
- C_Drive002_i003.iv2i：2 回目のベースバックアップファイルに対する 3 回目の増分バックアップファイルのファイル名

V2i Protector で「最後のバックアップ」という項目がある場合には、最後にバックアップを行った日時が表示されます。

6-3. 複数の非表示パーティションをバックアップする

このセクションでは、Windows のマイコンピュータに表示されない非表示パーティションやドライブレターを持たないパーティションをバックアップする方法を説明しています。

重要： PartitionMagic/BootMagic 等で複数の OS を使用している場合は、特に注意してお読みください。

1. [スタート] [すべてのプログラム] [PowerQuest V2i Protector] [V2i Protector Desktop Edition] で V2i Protector を起動してください。

注意： Windows 2000 の場合には、[すべてのプログラム] の部分が [プログラム] になります。

2. ドライブのバックアップをクリックするとドライブのバックアップウィザードが表示されます。
[次へ] をクリックしてください。

3. 「バックアップするドライブ」という画面が表示されます。

バックアップを行うドライブを選択して、[次へ] をクリックしてください。

(図 6-23 には、非表示パーティションが 2 つあります。ドライブ文字の割り当てられていないパーティションについては、ドライブ文字が「*」になっています。)

ここでは、2 つの非表示パーティションと C ドライブ、D ドライブのバックアップをとります。



図 6-23

4. バックアップを行う場所を選択します。

ここでは、ハードディスク上の F ドライブにバックアップをとりますので、[ローカルファイル] を選択して、[参照] をクリックしてください。

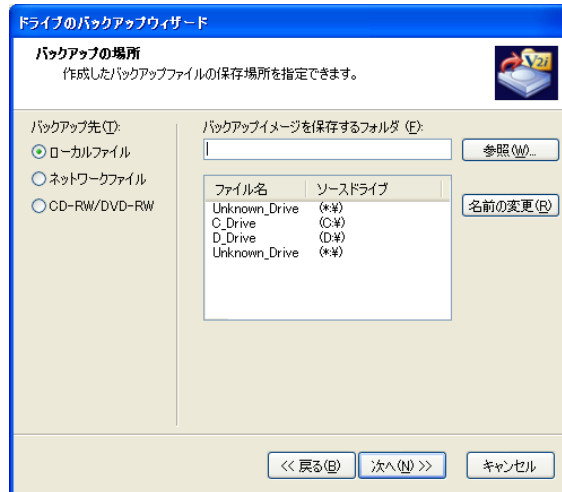


図 6-24

5. 「バックアップイメージを保存するフォルダ」という画面が表示されます。

ここでは、F ドライブにバックアップをとりますので、ローカルディスク (F:) を選択して、[OK] をクリックします。



図 6-25

6. バックアップイメージを保存するフォルダの部分に「F:¥」と表示されます。

ここでファイル名を確認します。

Windows 上でドライブ文字の割り当てられている C ドライブのファイル名は、「C_Drive」に D ドライブのファイル名は、「D_Drive」になります。

ただし、ドライブレターもボリュームラベルもないパーティションについては、どちらも「Unknown_Drive」という同一のファイル名を指定することになってしまいます。

このままバックアップを行うと 2 つ目の非表示パーティションがバックアップされません。

これを回避するため、2 つ目のファイルのファイル名を変更します。

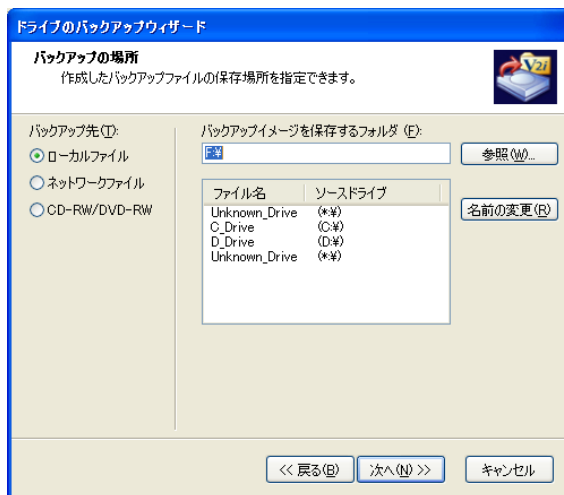


図 6-26

7. 変更するファイル名を選択してください。

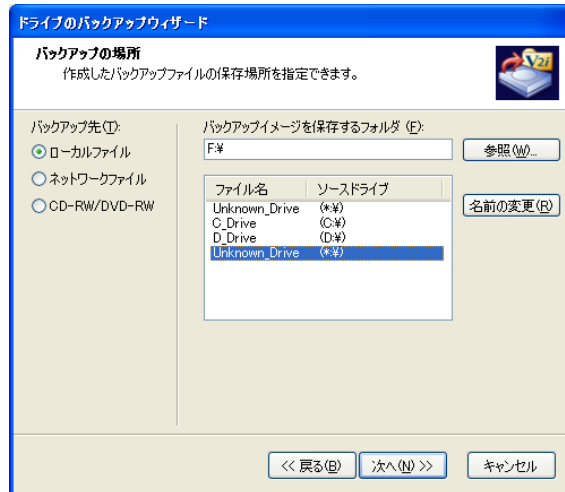


図 6-27

8. 名前の変更をクリックしてください。

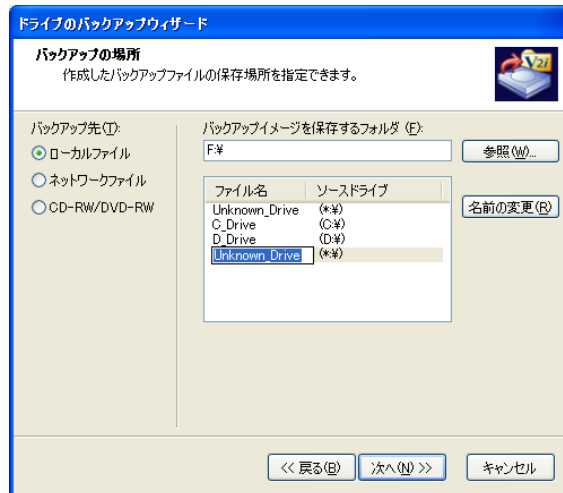


図 6-28

9. 現在設定されていないファイル名に変更してください。

ここでは、「hidden_Drive」に変更します。

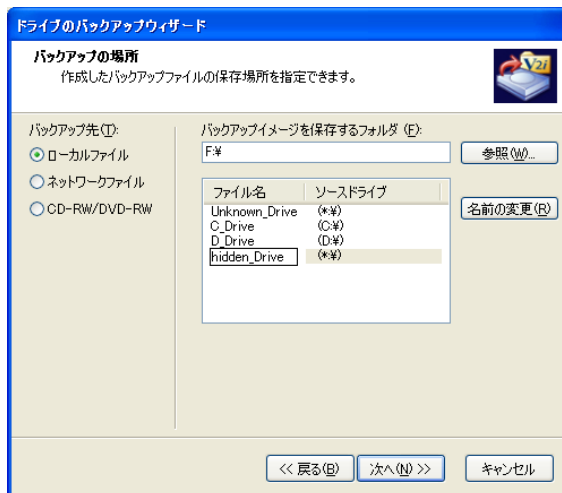


図 6-29

10. 後は、一般的なバックアップと同様です。

<参考 1：ファイル名を変更しなかった場合>

「バックアップするドライブ」という画面で確認すると、2 つ目の非表示パーティションも「最後のバックアップ」の日付が更新されていますが、実際には何もバックアップされていません。これは先頭のパーティションのバックアップが後にとられるため、バックアップファイルが上書きされてしまうためです。



図 6-30

<参考 2：ラベル名が付いている場合>

先頭にある非表示パーティションには、「Part1」

2 番目にある非表示パーティションには、「Part2」

3 番目にある C ドライブ（表示パーティション）には、「Part3」

4 番目にある C ドライブ（表示パーティション）には、「Part4」

というラベルをつけた場合です。

「バックアップするドライブ」という画面で確認すると、各ドライブにラベルがつけられていることが確認できます。



図 6-31

[次へ] をクリックして、「バックアップの場所」という画面に進みます。

自動的に割り当てられたファイル名を見ると、非表示パーティションの場合にはラベル名がつけられていることが確認できます。

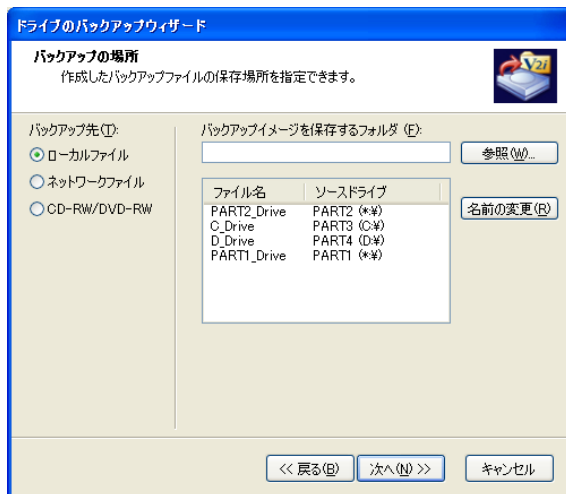


図 6-32